

◎名演奏家

ディスコグラフィ◎

Herbert von Karajan

ヘルベルト・フォン・カラヤン



録音スタッフより見るレコーディング小史①

ジョン・カルシヨウ
イギリス・デッカ

今月より数回は、「録音スタッフより見るレコーディング小史」と題して、期間をくぎった制作側の録音史の流れをみることにする。第一回はジョン・カルシヨウとゴードン・パリーのふたりを中心とするイギリス・デッカのチーム（他にジェイムズ・ブラウン、エリック・スミス、ジェイムズ・ロック、レイ・ミンシヤル、クリストファー・レイバーン、ピ

ーター・アトウッド）がウィーン・フィルと行ったステレオ初期の録音を取り上げるが、本編のディスコグラフィでは連載がすでに完了している部分であるので、詳細なデータはそちらに譲ることとする。オペラ全曲盤五点を含む、ちょうど二十点のアルバムは、五九年の三月より六五年の三月までに収録され、レコーディング会場はすべてウィーンのゾフィエンザールが使用された。この間のカラヤンはベームの後任としてウィーン国立歌劇場の音楽監督の地位にあり、ウィーン・フィルとは実質上準常任の関係で蜜月期間であつたことはいまでもない。

戦後すぐにイギリス・コンビニアのウォルター・レッグのプロデュースによるウィーン・フィルとの録音がカラヤンの国際的名声の足がかりになったとすると、このイギリス・デッカへのステレオ録音は、カラヤンとウィーン・フィルとの黄金時代の記録といふことがいえるであろう。さらにこの間に録音された作品の選曲は、このオーケストラの持てる能力を最大限に発揮できる起伏のひとときを目立つ作品や抒情性を強く求められるものばかりであるのは、見逃すことが出来ない点でもある。これはウィーンにのりこんできた若きイギリス人スタッフの意向か、はたまたカラヤンひとりの選曲なのか断



モニター・ルームのカラヤンとジョン・カルシヨウ

定できないが、いずれにせよ見事に計算されている作品群とみることができ。

五九年三月の最初のセッションではベートーヴェンの交響曲第七番とブラームスの交響曲第一番が録音されるわけだが、いきなり重厚な交響曲ふたつというのは、カラヤンの自信のあらわれ以外のなものでもない。つづいてR・シュトラウスの交響詩《ツァラトゥストラはかく語りき》、モーツァルトの交響曲第四〇番とハイドンの交響曲第一〇四番《ロンド》が、さらにJ・シュトラウス集が五九年四月までに収録された。特に《ツァラトゥストラ》は発売当時録音の優秀さがたいへん話題になった録音で、世界的にこ

の曲を知らしめる結果となる余録もついた。また、ハイドンとモーツァルトの交響曲のカップリングもひとつの新しい試みとみていいだろう。これを六三年四月の第四一番《ジュピター》と第一〇三番《太鼓連打》のアルバムから各々モーツァルトの四〇／四一番、ハイドンの一〇三番／一〇四番というカップリングがえの発売を後年各国のレコード会社が行うのは、オリジナルのカップリングを軽視した商業ベース優先の安易な行為といえるのではないだろうか。

つぎに五九年九月にヴェルディの《アイーダ》全曲盤の録音セッションが組み込まれる。カラヤンはウィーン国立歌劇



▲SXL 6067(モーツァルト:交響曲第41番「ジュピター」&ハイドン:同第103番「太鼓連打」)



▲SXL 2261(R.シュトラウス:交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」、同「死と変容」、他)



▲SET 209-11(ヴェルディ:歌劇「オテロ」)

場の音楽監督時代に二十九作品(のべ二三二回)のオペラを上演するのだが、カルシウのデッカのチームが録音できたのは五作品でしかなかった。順に「アイダ」(五九年九月)、「こうもり」(六〇年六月)、「オテロ」(六一年五月)、「トスカ」(六二年九月)、「カルメン」(六三年十一月)である。この五点という数が多かったのか少なすぎたのかは別として、これらの録音は音だけによって音楽的イメージを容易に聴き手に理解させる試みを見事に成功させた例として記憶されていだろう。ステレオ初期のオペラ全曲盤における、劇的表現に重要な意味のある音響効果を数々とり入れて、左右いっばいに広がる臨場感あふれる音づくりは、ステレオの動きが手にとるようにわかり、レコードを聴く側にとつてたいへんな驚きをもつて迎えられた。

イギリス・デッカでは特にオペラ全曲盤を「ソニック・ステージ音の舞台」という名称でリリースして、発売当時たいへん話題となった。これを積極的に用い、その録音の中心にいたのが、若きプロデューサー、ジョン・カルシウその人であった。現在ではごくあたりまえのことであるこの録音技法は、いろいろと議論を呼んだ。しかしステレオによって得られる各パートの自然な分離とオーソドックスな定位感というものがうまく表現され、デッカ・レーベルのジョン・カルシウの名とともに評価され、定着していったのである。ここでカルシウ自身「こうもり」の録音について語ったものがあるので引用したい。「第二幕の録音自体がまるでパーティのようであった。主役たちやウィーン・フィルハーモニーに加えて幾百人のエキストラ、小楽団が数個、それぞれ位置をしておき、お客たちが一方から他方へ移る様子が聴く人にもありありとわかるように配慮された。庭からかけごとの部屋へ、オルゴフスキーのレセプション・ホールから舞踏場へと聴者は人々といっしょに動く。たとえばアデーレを囲んでいる人びとが彼女の Aria に喝采を送ったあと、遠くのほう

で別の喝采がおこる。フランクが登場したのである。その間、建物の一部にある楽隊が彼の到着をフランス国歌をもつて迎えている」。

また、この「こうもり」全曲盤には豪華なガラ・パフォーマンスが付き、さらに第二幕のバレエでは作曲者のオリジナル曲がいくつか挿入されているのもカラヤン盤の特徴である(バレエ曲の挿入は後年「カルメン」の映像「ユニテル」上演「ザルツブルク音楽祭」でも同様の見せ場が効果的につくられている)。

また、録音時のスナップ写真が幾葉か残されているが、それらはマルチ・スタジオ・テクニクという方法が採用されたことを示している。それはウィーン・フィルが配置するゾフィエンザールのメイン・ホールに隣接するいくつかのホールをサブ・スタジオとして同時に稼働させ、有線のテレビジョンでつなぐという方式である。たとえば「オテロ」の収録に際してはサブのホールで第一幕冒頭の「嵐の場」の特殊効果音がつくられ、メイン・ホールと連動するといった具合である。また、もうひとつのサブ・ホールでは第二幕の「庭園の場」のマンドリン合奏とグロスシュタット少年合唱団の録音が合唱指揮者のもとでおこなわれ、メイン・ホールのカラヤンは指揮台の位置でテレビ・モニターを見ながらウィーン・フィルを指揮するのである(ケーブルははりめぐらされモニターがあるからといって、テレビの録画や映画制作と誤解されそうだが、これは単に会場との接続の意味しかない)。

レコーディング・ポリシーとして「音の演出」をはっきり持った、このイギリス・デッカの録音スタッフとカラヤンの協力関係は、単にオーケストラが出す音を記録として収め、プレスするという領域をはるかに越えており、その後のカラヤンのレコーディング姿勢にも大きな影響を与えたことは間違いない。カルシウとの出会いは、カラヤンの生涯のなかでも最も重要な出来事ということができであろう。

六〇年一月と六月のセッションでは、チャイコフスキーの幻想序曲「ロメオとジュリエット」とR・シュトラウスの交響詩「ドン・ファン」を一枚にしたアルバム、さらに交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」、楽劇「サロメ」より七つのヴェールの踊り、交響詩「死と変容」といった複雑なオーケストレーションの作品が録音されていた。この時期のプロデューサーにエリック・スミスが加わることとなる。彼はハンス・シュミット・イッセルシュテッ



デッカ・チーム。左よりジェイムズ・ブラウン、カルショウ、ゴードン・パリー

トの子息であり、のちのシヨルティ指揮の『指環』のレコーディング・プロジェクトにも中心的スタッフとして参画することになる。

六一年六月にはレオンタイン・プラリスを起用してクリスマス音楽集として全十三曲の小曲を収録する。このアルバムはこの年のクリスマス前に発売され、驚異的な売り上げを挙げた。同年九月から一〇月にはブラームスの交響曲第三番

が『悲劇的序曲』とともに、チャイコフスキーのバレエ組曲『くるみ割り人形』がグリグの『ペール・ギュント』組曲と一緒に、またアダンのバレエ『ジゼル』の短縮版とホルストの組曲『惑星』が、そしてドヴォルザークの交響曲第八番がふたつのセッションで収録された。ここでホルストを一枚加えたのはイギリス人スタッフの面目躍如といったところか。各曲ごとの音響効果抜群のこの録音はカラヤンのレコーディングのなかでも欠くことの出来ない存在である。

六二年九月の『トスカ』全曲盤では曲の冒頭カラヤンの大きなうなり声が入っていることに気がつく方も多いことであろう。配役が豪華であること、さらに全編みごとに録音であることは、いうまでもないアルバムである。

そしてこのデッカのチームとの録音セッションは六五年三月十九日のチャイコフスキーのバレエ組曲『白鳥の湖』と『眠りの森の美女』で完了することになる。

その後、カルショウは六七年にBBCへ転じテレビ番組のプロデューサーとして活躍するが、八〇年四月に五十五歳という若さで急逝するのである。今回取り上げた数々の録音は、五十歳代のカラヤンと三十歳後半から四十歳代のカルショウの仕事であったわけで、まさに一時代を築いた輝かしい記録である。

いずれにせよ、このイギリス・デッカの技術陣による、これらステレオ初期の録音はCDに移行してもその価値を決して減ずるものでなく、今後ながく聴きつがれていくことであろう。

ヘルベルト・フォン・カラヤン=ディスコグラフィ

●ディスコグラフィ制作……………佐々木 豊 (資料提供: D.C.ランボン(英), 鈴木恭司, 金井清)

[ディスコグラフィ記載方法]

- 順序は演奏者、収録年月日、収録会場、プロデューサー([P])、ディレクター([D])、レコーディング・エンジニア([E])、マトリックス番号([M])、日本盤・外国盤のレコード番号、特記事項になっている。曲目の前の[V]は映像作品を示す。
- 収録年月日は録音に要した日付であり、実際に使われていないディスクも含んでいる。
- レコード番号はLP(10インチを含む)、CD(CD miniを含む)、LD、MDの順になっており、日本盤は各項目ごと発売順に並んでいる。
- 原則として初出のアルバムごとの配列にし、その中で最も早い録音日をもって配してある。
- アルバムごとのなかでは、①②③の曲番号を便宜上つけて各々のデータをつけた。また、オムニバス盤ではレコード番号のあとに曲番号を記したが、必ずしも収録順を示してはいない。
- 外国盤のLDの再生方式(PAL/NTSC等)は、ディスク番号のあとに記した。
- 全曲盤よりの抜粋・編集ものは「ハイライト」・「部分」としてまとめたが、各々のLPやCDで収録範囲は同じではない。
- 主な略記号は本誌巻末「新譜CD&LD一覧表」のものを使用している。

SC)



▶LD POLG 1030(ブラームス: 交響曲第1 & 2番)

◎ヴェルディ/歌劇「オテロ」

LD POLG 1030

②

LD POLG 1030

③

LD POLG 1031

④

LD POLG 1031

※①

LD 072 170-1(PAL), 072 270-1(NT SC)

②

LD 072 170-1(PAL), 072 270-1(NT SC)

③

LD 072 171-1(PAL), 072 271-1(NT SC)

④

LD 072 171-1(PAL), 072 271-1(NT

V◎ブラームス/①交響曲第1番8短調作品68②第2番二長調作品73③第3番へ長調作品90④第4番小短調作品98

■ベルリンpo.

▶1973年1月～3月ベルリン、フィルハーモニーザール

芸術監督: ヘルベルト・フォン・カラヤン

映像監督: エルンスト・ヴィルト

撮影: フランツ・ホッファー/クルト・ブリュクナー/エルンスト・ストリツィンガー

音響: ミシェル・グロツツ/ヴォルフガング・ギュリヒ/ロルフ・ベーター・シュレーダー

◎ホーランド・H・ホールフェルト

エグゼクティブ: フリッツ・ブッテンシュテット

⑥①

LD POLG 1029

②

VHD VHM 68072

LD W00Z 24052

①

LD 072 140-1(PAL), 072 240-1(NT SC)

②

LD 072 141-1(PAL), 072 241-1(NT SC)

※クワドラフォニック(4チャンネル)録音である。



LD 072 241-1(チャイコフスキー:交響曲第6番「悲愴」他)

◎ブッチーニ/歌劇「蝶々夫人」

■ミレラ・フレニ(S:蝶々夫人), ルチアーノ・パヴァロッティ(T:ピンカートン), クリスタ・ルーツヴィヒ(Ms:スズキ), ロバート・カーンズ(Br:シャープレス), ミシェル・セネシャル(T:ゴロー), マリウス・リッツアー(Br:僧侶), エルケ・シャリー(Ms:ケイト), ジョルジョ・ステンドロ(Br:ヤマドリ), ハンス・ヘルム(Bs:神官), ヴォルフガング・シャイダー(Bs:ヤクシデ), ジークフリート・ルドルフ・フレーゼ(Bs:戸籍係), エヴァマリア・フルデス(Ms:母), ウィーン国立歌劇場 cho., ノルベルト・バラツチュ(合唱指揮), ウィーンpo.

▶1974年1月28~31日ウィーン, ゴッティエンザール

■マイケル・ウールコック/クリストファー・レイバーン

■ジェームズ・ロック/ジャック・ロウ/ゴードン・バリ

M ZAL 1313-8

LD L P: SLC 7210-2, K18C 9242-4, L69 C1208-10

CD: F90L 50437-9, POCL 2136-8 [ハイライト]

L P: SLA 6183, L20C 1825, F30L 202 03

CD: POCL 2707

[部分]

L P: SL 5129-30, SLA 6269, SLC 80 87, L28C 1534, L16C 1650, K20 C 8630

CD: F30L 20194, F30L 20273, F00L 23048, F00L 20470-3, POCL 220 2, POCL 2205, POCL 2308, POC L 5039

LD L P: SET 584-6, 6.35 258FK, OSA 13110, 390 033, IC 27349 009

CD: 417 577-2

[ハイライト]

L P: 26455, SET 605, 6.42 021AN

CD: 421 611-2, 421 247-2

[部分]

L P: 6.42 159AS

CD: 421 307-2, 421 308-2, 421 309-2, 421 314-2

ング・ギュリヒ/ロルフ・ベーター・シュレーダー

映像編集:ギゼラ・ハラ

LD L P: H-ホルフェルト エグゼクティヴ/フリッツ・ブッテンシュテット

LD VHD VHM 68052

LD W60Z 24007

[第2楽章]

LD POLG 1037

LD 072 104-1(PAL), 072 204-1(NT SC)

[第2楽章]

LD 072 196-1(PAL), 072 296-1(NT SC)

◎マーラー/①交響曲「大地の歌」②リュッケルトの詩による5つの歌曲

■ルネ・コロ(T/①), クリスタ・ルーツヴィヒ(A), ベルリンpo.

▶1973年12月7日(①), 10日(①), 1974年5月8~9日(②), 10月14日(②) ベルリン, フィルハーモニーザール

LD L P: H-ホルフェルト

LD L P: コード・ガーベン(①)/ハンス・ヴェーバー(②)

LD L P: ギュンター・ヘルマンズ

M 2530 553-4

LD L P: MG 8072-3, MG 1223

①

L P: 18MG 4626, 28MG 0465

CD: F28G 22045, POCG 2260

②

CD: F66G 50026-7, POCG 2256-7

LD L P: 2707 082

①

L P: 2531 379, 419 058-1

CD: 419 058-2

②

L P: 2531 147, 419 476-1

CD: 415 099-2, 439 678-2



LD 28MG 0465(マーラー:交響曲「大地の歌」)

LD L P: ヴィチャイコフスキー/①交響曲第4番「短調作品36」②第6番「短調作品74」

LD L P: ベルリンpo.

LD L P: 1973年12月ベルリン, フィルハーモニーザール

芸術監督:ヘルベルト・フォン・カラヤン

映像監督:エルンスト・ヴィルト

撮影:ユルゲン・ユルゲンス/エルンスト・ストリツィンガー/アクセル・デ・ロッシュ/クルト・ブリュクナー

音響:ヴォルフガング・ギュリヒ/ヘルムート・シャルケ

音響:ミシェル・グロツ

映像編集:ゲラ・マリナ・ルンネ

LD L P: H-ホルフェルト

LD L P: エグゼクティヴ/フリッツ・ブッテンシュテット

LD L P: ①

LD L P: ト・ルドルフ・フレーゼ, ヘルマン・バツァルト, ハンネス・ヨーケル, アントン・ディアコフ, ボリス・カルメリ(以上②), クリスタ・ルーツヴィヒ(Ms), ベーター・シュライアー(T), ヨゼフ・グラインドル(Bs), ロルフ・ボイゼン(語り), ケルン放送cho., RIAS室内cho., テルツ少年cho., ケルン放送so.

LD L P: ▶1973年7月16~21日ケルン, レーヴァークーゼン

LD L P: ハンス・ヒルシュ

LD L P: ハンス・ヴェーバー

LD L P: ギュンター・ヘルマンズ

M 2530 432

LD L P: POCG 2265

LD L P: 2530 432

CD: 429 859-2

LD L P: ◎バツハ/ミサ曲「短調」B.W.V. 232

LD L P: ■グンドウ・ヤノヴィッツ(S), クリスタ・ルーツヴィヒ(A), ベーター・シュライアー(T), ロバート・カーンズ(Br), カール・リッダーブッシュ(Bs), ウィーン楽友協会cho., ヘルムート・フロシャウアー(合唱指揮), トマス・ブランディス(vn), ゲルト・ザイフェルト(hrn), ジェームズ・ゴールウェイ(fl), ギュンター・ブリル(fl), ロバート・エリスク(ob), ハイナリヒ・ケルヒャー(ob), ギュンター・ビースク(fg), ヘニング・トローク(fg), エーバーハルト・フィンケ(vc), ライナー・ツェベリッツ(cb), ルドルフ・ショルツ(org), ベルリンpo.

LD L P: ▶1973年9月23~28日, 11月23日, 1974年1月3~5日ベルリン, フィルハーモニーザール

LD L P: ミシェル・グロツ

LD L P: ハンス・ヴェーバー

LD L P: ギュンター・ヘルマンズ

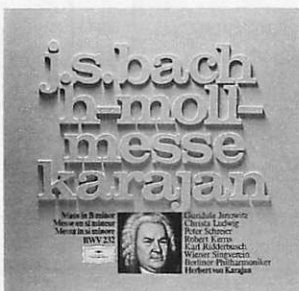
M 2810 033-5

LD L P: MG 9741-3, MG 8177-9

CD: POCG 2267-8

LD L P: 2740 112, 2709 049, 415 622-1, 413 188-1

CD: 415 622-2, 439 696-2



LD L P: ▶2740 112(バツハ:ミサ曲「短調」)

LD L P: ◎ラフマニノフ/ピアノ協奏曲第2番「短調作品18」

LD L P: ■アレクシ・ワイセンベルク(p), ベルリンpo.

LD L P: ▶1973年9月ベルリン, フィルハーモニーザール

芸術監督:ヘルベルト・フォン・カラヤン

映像監督:エルンスト・ヴィルト

撮影:クルト・ブリュクナー/エルンスト・ストリツィンガー/ユルゲン・シェネマン

音響:ミシェル・グロツ/ヴォルフガ

◎名演奏家

ディスコグラフィ◎

Herbert von Karajan

ヘルベルト・フォン・カラヤン



録音スタッフより見るレコーディング小史②

佐々木 豊

オットー・ゲルデス
「ドイツ・グラモフォン」①

今回よりドイツ・グラモフォンのレコーディング・チームの音づくりをみてゆきたい。その最初は、プロデューサーがオットー・ゲルデス、エルザ・マリア・シラー、ディレクターがハンス・ヴェーバー、オットー・エルンスト・ヴォーレルト、録音技師がギュンター・ヘルマンズたちによる、「ドイツ・グラモフォン」のエロー・レーベルの六〇年代の輝かし

い記録を作ったチームによるものである。もちろんヘルマンズはカラヤンの最初の録音までチーフ・レコーディング・エンジニアとして仕事をともにするわけだが、グラモフォンの一回目はゲルデスをプロデューサーとする六〇年代の録音の過程をみることにする。

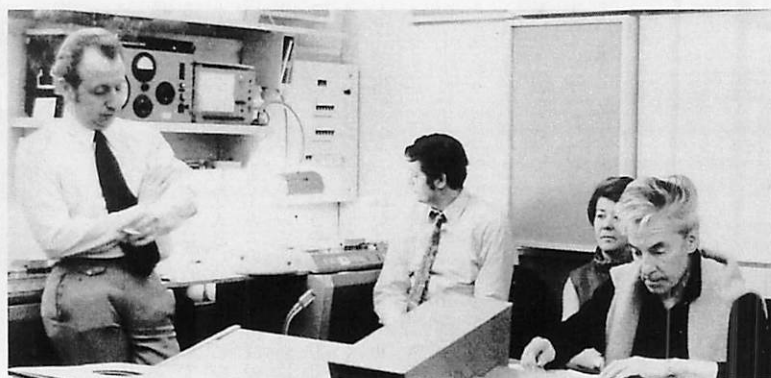
一九五四年十一月、フルトヴェングラーがバーデン・バーデンで没したとき、ベルリン・フィルは翌年二月にアメリカ・カナダへ初の大規模な演奏旅行を予定していた。もちろんカラヤンがこの演奏旅行を引き継ぎ、その大役をみごとに果たし、旅行中にフルトヴェングラーの後継者としてベルリン・フィルの芸術監督と終身常任指揮者に指名されたのであったが、このアメリカ公演のための費用の一部をドイツ・グラモフォンに拠出してほしいと申し入れたとされるのである。当時のドイツ・グラモフォンのクラシック・レパートリーの責任者はシラー女史で、カラヤンの移籍と専属録音契約を条件にこの申し出に応じたという。しばらくの期間においてカラヤンはドイツ・グラモフォンへ移籍し計画だった大規模なレコーディングを開始する。カラヤン&ベルリン・フィルはドイツ・グラモフォン「エロー・レーベル」という、名実ともに世界の第一人者としての仕事をこのレコー



オットー・ゲルデス

ベルにつぎつぎにうちたてていくわけだが、このときのエルザ・マリア・シラーの決定が、すべての流れを大きく変えたといっていだろう。

しかし、カラヤンはすぐ移籍せずにEMIに残っていた契約を履行する。シューマンの交響曲第四番、ブルックナーの交響曲第八番、バルトークの《弦楽器、打楽器とチェレスタのための音楽》、ヒンデミットの交響曲《画家マチス》、ドヴォルザークの交響曲第九番《新世界より》、チャイコフスキーの交響曲第四番などのみごとな演奏が、ウォルター・レッグのプロデュースのもとベルリン・フィルとステレオ録音されていた。これはドイツ・グラモフォン移籍への見返り、交換条件であつたはずだ。この時期ほかに複



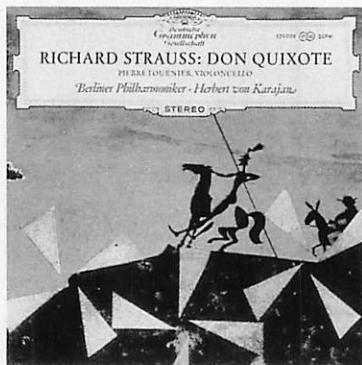
モニター・ルームのカラヤンとギュンター・ヘルマンズ(左端)

数の指揮者もEMIにベルリン・フィルを使っていくつかの録音を行なっていることから、この推測は成り立つと考えていいだろう。

このEMIへの一連のベルリン・フィルとの録音はグリューネヴァルト教会が



▲SLPM 139 003 (バルトーク：管弦楽のための協奏曲)



▲SLPM 139 009 (R.シュトラウス：交響詩《ドン・キホーテ》)



▲SLPM 139 022 (R.コルサコフ：交響組曲《シェヘラザード》)

レコーディング・ロケーションとして使われたが、ドイツ・グラモフォンのチームはダーレムにあるベルリン・イエス・キリスト教会を使った。この教会はフルトヴェングラーの五十二年十二月のハイドンの交響曲第八十八番での録音使用が最初とおもわれるが、この残響特性のすぐれた教会をみつけたのは、当時、技術部長の職にあったハインリヒ・カイルホルツであったという。彼はレコーディング・エンジニアというより音響学者としてドイツでは有名であった（のちにザルツブルク祝祭大劇場の可動音響板の設計を行なうことになる）。筆者もベルリンに旅行したおり、イエス・キリスト教会を訪ねたことがある。平日で正面の出入りが閉まっていたのを、無理をいって中に入れてもらったが、録音セッションの写真からは考えられないほど内部は小さな空間であつたのに驚かされた思い出がある。

ドイツ・グラモフォンのモノラル期からのレコーディング・ポリシーはカイ

ルホルツの「コンサート・リアリズム」という概念にあるとされる。それはコンサート・ホールで演奏されたオーケストラの音をそのままレコードで再現するといふものであり、ドイツ・グラモフォン社の伝統としてカラヤンの録音を手がけるゲルデスのチームにも踏襲されていたのである。

ここでふたりのプロデューサー、エルザ・マリア・シラーとオットー・ゲルデスの経歴についてふれておこう。シラーは一八九七年十月バーデンに生まれ、はじめピアノリストとして活躍するが、戦後RIAS放送協会のクラシック音楽部門主任を経て、五五年ドイツ・グラモフォン社に入り、プロデューサーとなり制作側の仕事を手がけることになる。戦後のモノラル期からのドイツ・グラモフォンのサウンド・ポリシーは、カイルホルツとシラーによって作り出されたといつても過言ではないという。カラヤンの六一六二年のベートーヴェンの交響曲全集の解説書にはシラーの名がはつきりと

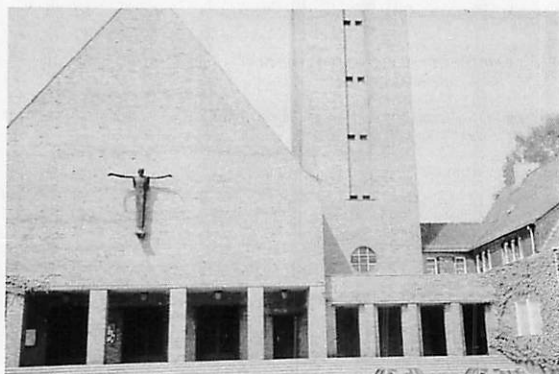
記されている。ゲルデスは一九二〇年一月ケルンに生まれ、ケルン大学でヴァイオリンを学ぶが、のちにヘルマン・アーベントロートに師事して指揮法を修めた。四七〜四八年、北西ドイツ交響楽団、四八〜五二年、南西ドイツ放送局の指揮者をつとめ、五六年よりドイツ・グラモフォン社のディレクターとなった。六〇年代のカラヤンの録音のほとんどをプロデュースし、自らも指揮者としてブラームスの交響曲第四番やワーグナーの歌劇《タンホイザー》全曲をドイツ・グラモフォンに残している。カラヤンよりひとまわり若い世代の人である。

ドイツ・グラモフォンの「コンサート・リアリズム」は中低音がしつかりしており、その上に徐々に音を重ねていくという安定感のある、さらに残響時間を重視し空間的な音のひろがりを感じさせるように伝えるという音づくりとなつて、「コンサート・ホール・プレゼンス」という言い方もされた、おりからのステレオ録音の浸透と一般家庭でのステレオ再生

装置の普及から、カラヤンの「イエロー・レーベル」は世界中で爆発的な売上をしますこととなる。もちろんそれはカラヤンとベルリン・フィルの演奏がこの時代の人々に受け入れられたからこそであり、極端な言い方をすれば、それはドイツを代表する規範的演奏、第一級の演奏であると認められたことにほかならない。ベートーヴェンであれブラームス、チャイコフスキーであれ、このあと作られたレコードはこのときのカラヤンとベルリン・フィルの演奏がもとにあり、聴き比べられるときはこれらの演奏が基準だったとは言えないだろうか。

五九年三月の《ツァラトゥストラはかく語りき》がドイツ・グラモフォンへの初録音になるが、このレコーディング・セッションはハンス・リッターがプロデューサー、ヴェルナー・ヴォルフがディレクターとして行なわれた。その後七〇年一月までゲルデス、ヴェーバー、ヘルマンズの三人のチームが担当し録音したアルバムは全部で七〇枚ほどにもなる。主なものをひろつてみると、五九年九月の《ハンガリー舞曲集》&《スラヴ舞曲集》、六一年四月の《コツペリア》&《レ・シルフィード》、同年十二月よりのベートーヴェンの交響曲全集、六三年十月よりのブラームスの交響曲全集、六四年三月のドヴォルザークの交響曲第九番《新世界より》、十月の《春の祭典》、六四年十二月の幻想交響曲、六五年二月のシベリウスの交響曲第五番と同第四番、六五年九月のチャイコフスキーの交響曲第五番、十一月の展覧会の絵、十二月の《ドン

・キホーテ、六六年三月のブルックナーの交響曲第九番、十一月のショスタコーヴィチの交響曲第一〇番、六七年一月の「シエラザード」、九月の「オペラ間奏曲集」、六八年九月のドヴォルザークのチェロ協奏曲、六九年九月のスケベの「序曲集」そして自らが主宰する「ザルツブルク・イースター音楽祭」の上演と並行して録音を行ったワグネルの《指環》四部作へと続くのである。



ベルリン・イエス・キリスト教会正面外観

《指環》の録音手法の先進性はここで述べるまでもなく、カラヤン独自のものがあり、また六六年から夏の期間スイスのサンモリッツで行われたモーツァルトの「ディヴェルティメント」やヘンデルの合奏協奏曲などを録音するやり方も、指揮者とオーケストラ、指揮者とレコーディング・スタッフにとってこれまでにない新しい録音形態の試みとみることができよう。



イエス・キリスト教会での《指環》の録音セッション

ヘルベルト・フォン・カラヤン=ディスコグラフィ

●ディスコグラフィ制作……………佐々木 豊 (資料提供: D.C.ランボン(英), 鈴木恭司, 金井清)

〔ディスコグラフィ記載方法〕

- 順序は演奏者、収録年月日、収録会場、プロデューサー〔P〕、ディレクター〔D〕、レコーディング・エンジニア〔E〕、マトリックス番号〔M〕、日本盤・外国盤のレコード番号、特記事項になっている。曲目の前の〔V〕は映像作品を示す。
- 収録年月日は録音に要した日付であり、実際に使われていないディスクも含まれている。
- レコード番号はLP(10インチを含む)、CD(CD miniを含む)、LD、MDの順になっており、日本盤は各項目ごと発売順に並んでいる。
- 原則として初出のアルバムごとの配列にし、その中で最も早い録音日をもって配列している。
- アルバムのなかでは、①②③の曲番号を便宜上つけて各々のデータをわけた。また、オムニバス盤ではレコード番号のあとに曲番号を記したが、必ずしも収録順を示しているわけではない。
- 外国盤のLDの再生方式(PAL/NTSC等)は、ディスク番号のあとに記した。
- 全曲盤よりの抜粋・編集ものは〔ハイライト〕・〔部分〕としてまとめたが、各々のLPやCDで収録範囲は同じではない。
- 主な略記号は本誌巻末「新譜CD&LD一覧表」のものを使用している。

■アレクシス・ワイセンベルク(p), ベルリンpo.

▶1974年 5月26~27日ベルリン, フィルハーモニーザール

□ミシェル・グロツ

□ヴォルフガング・ギュリヒ

□02 535 Q

□LP: EAC 80017, EAC 47238-9, EAC 81020

CD: CE28 5182, CE25 5676, TOCE 8 172-3

⑥LP: 1C 065 02 535 Q, 1C 069 02 535, 1C 157 03 285-9 Q, 1C 157 53 060-3 Q, 2C 069 02 535, 2C 165 53 060-3, S 37062 Q, ASD 3043, SLS 5112, 29 10613

CD: CDM 769 336-2, CZS 252 172-2



▲1C 065 02 577Q(R.シュトラウス: 交響詩「英雄の生涯」)

◎ベートーヴェン/ピアノ協奏曲第5番 変奏長調作品73「皇帝」

◎R.シュトラウス/交響詩「英雄の生涯」 作品40

■ミシェル・シュヴァルベ(vn), ベルリンpo.

▶1974年 5月23~28日ベルリン, フィルハーモニーザール

□ミシェル・グロツ

□ヴォルフガング・ギュリヒ

□02 577 Q

□LP: EAC 80080, EAC 47063-4, EAC 47313-4, EAC 99010

CD: CC28 99010, CE28 5401, TOCE 8924

⑥LP: 1C 065 02 577 Q, 1C 069 02 577, 2C 069 02 577, ASD 3126

Q, S 37060 Q, EG 29 08521

CD: CDM 769 027-2

- ②
LP: EG 29 0411-1
CD: CDM 769 019-2, CDM 253 665
-2
- ③
CD: CMS 763 469-2
- ④
LP: S3CBX 517, EG 29 0411-1
CD: CDM 769 019-2, CDM 253 665
-2
- 〔④の前奏曲〕
LP: SLS 5086



▲1C 065 02 603Q (ワーグナー／管弦楽曲集第1集)

- ①ワーグナー／①楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」第1幕への前奏曲②歌劇「さまよえるオランダ人」序曲③「ローエングリン」第3幕への前奏曲④楽劇「パルジファル」第1幕への前奏曲⑤第3幕への前奏曲

- ベルリン po.
▶1974年9月22日～10月1日, 15～19日
ベルリン, フィルハーモニーザール
P ミシェル・グロツ
E ヴォルフガング・ギュリヒ
M 02 604 Q
② LP: EAC 80156, EAC 47061-2, EAC 47228-9, EAC 81004, EAC 4731
1-2

- CD: TOCE 7264
- ①
LP: EAC 99009
CD: CC28 99009, CC28 3823
- ②
LP: EAC 99009
CD: CC28 99009, CC28 3823
- ③ LP: 1C 065 02 604 Q, 2C 069 02 604, S 37098 Q, ASD 3160

- ①
LP: EG 29 0411-1
CD: CDM 769 019-2, CDM 253 665
-2, CDM 764 334-2
- ②
LP: SXLP 30506, EG 29 0411-1
CD: CDM 764 334-2, CMS 764 563
-2, CMS 764 650-2, CDM 253 665-2
- ③
CD: CMS 763 469-2, CDM 253 665
-2, CDM 764 334-2
- ④
LP: SLS 5086
CD: CMS 763 469-2
- ⑤
CD: CMS 763 469-2

- ①ベートーヴェン／ミサ・ソレムニス
二長調作品123

- グンドラ・ヤノヴィツ(S), アグネス・バルツァ(A), ベーター・シュライアー(T), ヨセ・ファン・ダム(Bs),
ウィーン楽友協会 cho., ヘルムート・

ア伯爵), エリザベス・ハーウッド(S:
伯爵夫人), ミレツ・フレニ(S:
スザンナ), ヨセ・ファン・ダム(Br:
フィガロ), ジャヌ・ベルビエ(Ms:
マルチェリーナ), フレデリカ・フ
オン・シュターデ(Ms:ケルビーノ),
ミシェル・セネシャル(T:ドン・バジ
リオ), パオロ・モンタルソ(Bs:バ
ルトロ), ゴールタン・ケレメン(Bs:
アントニオ), エルケ・シャリー(S:
バルバリーナ), ウィリー・カロン(T:
ドン・クルチオ), グンダ・スビルッ
ターニ(Ms:若い娘), ウィーン国立歌
劇場 cho., ウルター・ハーゲン=グ
ロル(合唱指揮), ウィーン po.

▶1974年7月31日ザルツブルク, 祝祭大
劇場

② LP: Estro Armonico EA 010

- ①シューマン／ピアノ協奏曲イ短調作品
54

■マウリツィオ・ポリニ(p), ウィン
po.

▶1974年8月15日ザルツブルク, 祝祭大
劇場

② CD: EXCLUSIVE EX 92T17, DOCU-
MENTS LV 938

※ザルツブルク音楽祭でのライブ録音盤。こ
の日の演奏会の後半はドヴォルザークの交響
曲第8番であった。



▲EX 92T17 (シューマン：ピアノ協奏曲)

- ①ワーグナー／①歌劇「タンホイザー」序
曲②ヴェヌスベルクの音楽(バリ版)
③「ローエングリン」第1幕への前奏
曲④楽劇「トリスタンとイゾルデ」よ
り前奏曲とイゾルデの愛の死

- ベルリン・ドイツ・オペラ cho. (②),
ウルター・ハーゲン=グロル(合唱指
揮/②), ベルリン po.
▶1974年9月22日～10月1日, 15～19日
ベルリン, フィルハーモニーザール
P ミシェル・グロツ
E ヴォルフガング・ギュリヒ
M 02 603 Q
② LP: EAC 80149, EAC 47061-2, EAC 47228-9, EAC 81003, EAC 4731
1-2

- CD: TOCE 7263
- ①
LP: EAC 99009
CD: CC28 99009, CC28 3823
- ②
LP: EAC 99009
CD: CC28 99009, CC28 3823
- ④
LP: EAC 99009
CD: CC28 99009, CC28 3823
- ③ LP: 1C 065 02 603 Q, 2C 069 02 603, S 37097 Q, ASD 3130

- CD: CDM 764 334-2
- ①
LP: EG 29 0411-1
CD: CDM 769 019-2, CDM 253 665

- ①①フンメル(ウーブラドウ編)／トラン
ベツ協奏曲二長調S.49 @ L. モー
ツァルト(ザイフェルト編)／トランベ
ツ協奏曲二長調③テレマン(グレーベ
編)／トランベツ協奏曲二長調④ウ
ィヴァルディ(ティルデ編)／トランベ
ツ協奏曲変イ長調

■モーリス・アンドレ(tp), ベルリン po.
▶1974年5月28～29日ベルリン, フィル
ハーモニーザール

- P ミシェル・グロツ
E ヴォルフガング・ギュリヒ
M 02 544

- ② LP: EAC 80030
CD: CC30 9098, TOCE 7225
- ③ LP: 1C 065 02 544, 2C 069 02 544, S 37063, ASD 3044, 065 102
544-1
- CD: CDC 749 237-2, CDC 749 474-
2

〔④の第1楽章〕

LP: GNIM 1

〔①の第2～3楽章〕

CD: CDM 769 164-2

※④はヴァイオリン・ソナタ作品2-4の第2
～4楽章の編曲である。また、トランベツの
ソロ部分とオーケストラ部分とは別録音の合
成であるなど、発売当時まことしやかに流
言されたもの、カラヤンらしいエピソードで
ある。



▲1C 065 02 544 (トランベツ協奏曲集)

- ①バルトーク／管弦楽のための協奏曲
Sz.116

■ベルリン po.
▶1974年5月30日ベルリン, フィルハー
モニーザール

- P ミシェル・グロツ
E ヴォルフガング・ギュリヒ
M 02 536 Q

- ② LP: EAC 80023, EAC 55021
CD: TOCE 5984-7, TOCE 7038
- ③ LP: 1C 065 02 536 Q, 1C 069 02 536, ASD 3046, S 37059 Q
CD: CMS 763 321-2



▲1C 065 02 536Q (バルトーク：管弦楽のための協奏曲)

- ①モーツァルト／歌劇「フィガロの結婚」
■トム・クラウゼ (Br: アルマヴィーヴ)

ーザール

芸術監督：ヘルベルト・フォン・カラヤン
 映像監督：エルンスト・ヴィルト
 撮影：クルト・ブリュックナー／エルン
 スト・ストリツィンガー／ユルゲン・
 シェネマン
 音楽：ミシェル・グロツ／ヴォルフガ
 ング・ギュリヒ／ロルフ＝ペーター
 ・シュレーダー

映像編集：ゲラ＝マリナ・ルンネ
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰 㼱 㼲 㼳 㼴 㼵 㼶 㼷 㼸 㼹 㼺 㼻 㼼 㼽 㼾 㼿 㽀 㽁 㽂 㽃 㽄 㽅 㽆 㽇 㽈 㽉 㽊 㽋 㽌 㽍 㽎 㽏 㽐 㽑 㽒 㽓 㽔 㽕 㽖 㽗 㽘 㽙 㽚 㽛 㽜 㽝 㽞 㽟 㽠 㽡 㽢 㽣 㽤 㽥 㽦 㽧 㽨 㽩 㽪 㽫 㽬 㽭 㽮 㽯 㽰 㽱 㽲 㽳 㽴 㽵 㽶 㽷 㽸 㽹 㽺 㽻 㽼 㽽 㽾 㽿 㿀 㿁 㿂 㿃 㿄 㿅 㿆 㿇 㿈 㿉 㿊 㿋 㿌 㿍 㿎 㿏 㿐 㿑 㿒 㿓 㿔 㿕 㿖 㿗 㿘 㿙 㿚 㿛 㿜 㿝 㿞 㿟 㿠 㿡 㿢 㿣 㿤 㿥 㿦 㿧 㿨 㿩 㿪 㿫 㿬 㿭 㿮 㿯 㿰 㿱 㿲 㿳 㿴 㿵 㿶 㿷 㿸 㿹 㿺 㿻 㿼 㿽 㿾 㿿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰

◎名演奏家

ディスコグラフィ◎

Herbert von Karajan

ヘルベルト・フォン・カラヤン



録音スタッフより見るレコーディング小史③

佐々木豊

ハンス・ヒルシュ

ドイツ・グラモフォン②

ドイツ・グラモフォンにおけるカラヤンの六〇年代の録音が、コンサート・リブリズムというサウンド・ポリシーのもと、オットー・ゲルデスの率いるチームによってグーレムのイエス・キリスト教会で行なわれ、世界中の市場で広範囲に支持を受け、売り上げを伸ばしたということをも前回は述べたが、今回はドイツ・グラモフォンの第二回目として、七〇年代の

録音を手がけたハンス・ヒルシュをプロデューサーとする一連の仕事を俯瞰してみることになる。

この七〇年代のカラヤンの活動は、レコーディングはドイツ・グラモフォンだけに限らず、フランスのプロデューサー、ミシェル・グロツツとともにドイツ・エレクトローラに行なったクワドラフォニック・4チャンネル録音のすばらしい演奏の数々が残されており、またベルリン・フィルとの世界各地への演奏旅行も定期化し、ザルツブルクでは六七年からイースター音楽祭を、七三年からは聖霊降臨祭をそれぞれ創設、自ら主宰し、カラヤンとベルリン・フィルの組み合わせは、超一流の折り紙がつけられ世界の頂点に立つことになった。さらにユニテルという映像会社で家庭のテレビジョンで再生されることを前提としたホーム・ヴィデオのフィルム撮りに着手し、ベートーヴェン、ブラームスの交響曲全集をはじめに、ベルリン・フィルとのさらなる緊密な関係を強めることにもなった。

特に映像の分野におけるカラヤンの仕事は、単にテレビ局がコンサート風景を中継録画するといった域をはるかに越え、芸術監督としての自身の意図を随所に取り入れた、高い完成度をもつ作品として、くり返しての鑑賞に十分たえうる仕上

がりになっているのは言うまでもない。一九七〇年はベートーヴェンの生誕二〇〇年の記念の年にあたり、これにあわせて収録されたベートーヴェンの交響曲全集はベルリンのスタジオで行なわれたが、そのなかでも第三番《英雄》と第七番は、オーケストラを三つのブロックにわけ、傾斜のきつい難壇にのせて演奏させるという意表をついた映像になっている。また指揮台のカラヤンの影がスタジオのフロアに写し出され、それが動くさままで計算されており、通常の形態と著しく異なる一種挑戦的ですがある映像の試みとみることができる。一方、第九番《合唱》（ヤノヴィッツ、ルートヴィヒ、トーマス、ベリ、ベルリン・ドイツ・オペラ合唱団）や第四番、第五番などは、ベルリン・フィルの根城であるフィルハーモニーザールで客席に聴衆を入れたライブに近い雰囲気をもった映像になっている。しかし、これは何回もの演奏を複数のカメラで追ったもので、各ソロのピク・アップも別撮りされるなど細かに作りあげられたものであった。この過程でフィルハーモニーザールのステージの上に木製の仮の足場がつくられセクションごとの部分撮りがおこなわれるが、この高くした足場こそがレコーディング会場をイエス・キリスト教会からこのホールへ移す



日本での売り上げ100万枚記念のゴールド・ディスクを受け取るカラヤン。右端がハンス・ヒルシュ

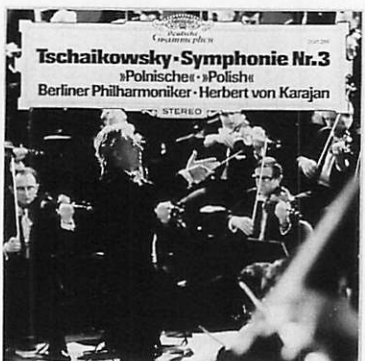
こととなる音響の大幅な改善のヒントになったとされるのである。六三年十月に完成したフィルハーモニーは、ハンス・シャロウンの設計のもと、カラヤンの意見も取り入れながら、最初からレコーディングや映像収録が可能な機能をもつ近代的なホールとしてスタートしたが、六〇年代後半、ドイツ・グラモフォンの音響担当者はこのホールの調整におかれたといわれる。イエス・キリスト教会は非常に音響のよい建物であったが、テンペルホーフ空港の発着航空路の真下にあり、録音中に航空機の騒音がしばしば入ったといわれる。さらに教会としての本来の機能のため、日曜日の午前中の礼拝の時間帯は元の状態に戻す必要があり（信徒席は可動式のイス席）、土曜日の午後から収録のために搬入設置した録音機材を一度撤収せねばならないという制約もあったという。カラヤンも、早い時期よりフィルハーモニーザールへの会場移転を考えていたのだが、実際に録音が始まるのは、七三年二月からに



▲2531 144 (ベルク：管弦楽のための3つの小品、抒情組曲からの3つの楽章)



▲2707 109 (ベートーヴェン：交響曲第8番&第9番(合唱))



▲2531 286 (チャイコフスキー：交響曲第3番(ポーランド))

七〇年八月よりゲルデスにかわってハンス・ヒルシュがカラヤンのレコード・ディングのプロデューサーとなるが、ちょうどこの時期EMIがグロッツをプロデューサーとして集中的に録音をはじめ（むしろこれは本編ディスクグラフィに譲る）、また映像の収録も行なわれたためか、ヒルシュのイエス・キリスト教会での最初の録音は、七〇年十二月の《カルメン》組曲と《アルルの女》第一・二組曲と「オペラ・パレエ曲集」からなる。そして翌七一年一月のロッシニの序曲集、メンデルスゾーンの交響曲第四番《イタリヤ》&第五番《宗教改革》、シューマンの交響曲第一番《春》&第四番、チャイコフス

キーの《白鳥の湖》&《眠りの森の美女》組曲、シューマンの交響曲第三番《ライオン》、メンデルスゾーンの《フィンガルの洞窟》&交響曲第三番《スコットランド》、オッフェンバックの《パリの喜び》ほか、二月に入ってシューマンの交響曲第二番《序曲、スケルツォとフィナーレ》、ウェバーの序曲集などの録音が短時間のうちに精力的に行なわれる。プロデューサーは変わつたがディレクターがハンス・ヴェーバー、レコーディング・エンジニア（録音技師）がギュンター・ヘルマンスであることには変わりがない。しかし、この録音の一部に全体を捕らえるマイク・ロフオンを変えたと思われる音の変化がききとれる。イエス・キリスト教会特有の残響が少なく、というより無理に押さえてしまっているような感じが、弦など硬く聴こえてしまう部分がある。過渡期の一種の迷いというか、色々と試行錯誤がくり返されているのだからと想像させられるのである。EMIの同じ教会での残響豊かな音づくりに対して、ドイツ・

グラモフォンは変わってきたという印象を少なからず感じたものであった。その後七三年二月のマーラーの交響曲第五番より、音響改善がなされたフィルハーモニー・ザールへと録音会場を変える。この二枚組のアルバムは、カラヤンの初のマーラーということで大きな話題になったが、その後も含めて新録音会場での録音は、ホール・トーンを十分に取り入れて全体に広がりを持った音になり、中高域の抜けがたいへん良くなり華やかに鳴り響くすっきりとしたサウンドになっていくのである。もちろんカラヤン・サウンドの特徴であるピアノ・シモの細部の明瞭さはさらによくなり、そのピアノ・シモと対照されるフォルティシモによつてうみだされる音量は、驚くべきものになっていた。

マーラーの交響曲第五番の録音場所はただベルリンとしか記されていないが、あきらかにフィルハーモニー・ザールでの収録である。つづいて「新ヴィーン楽派管弦楽曲集」として四枚組のアルバムがリリースされる。このアルバムは精妙きわまりない卓越した表現によつて、現代音楽の古典といわれる作品群を最高の姿で再現させた録音例とすることができよう。録音時の写真が発表されていないのでくわしい様子がわからないが、カラヤンはこの録音についていくつかのインタビューで述べているのでそれを引用してみたい。

「われわれが『ヴィーン楽派』を録音した際、ほとんど曲ごとにオーケストラの配置を変えたのです。なぜならときに総譜は過重に作られているからです。しかもその総譜は正しく聴き取られねばならないのですが、シェーンベルクの《変奏曲》などではそれがほとんど不可能です。ホルルのなかで、つまり音楽会においては、その音を聴く可能性はありません。しかしレコード録音では美しい結果が出てきます。でもこう言っても、われわれが歪曲するとか、何か別のものを作り出すとかいうのではありません。われわれは総譜の言おうとするところをできるだけはつきり出すようにとめるだけです。そしてこのことは普通のホルルのなかのオーケストラでは不可能です。また別のインタビューでは、『調整される』という、人は何か悪い意味に取りがちだが、これは根本的にまちがっている。ただホールでは、一席ごとに響きが違ふから、ふたりの人間が同じ響きを聴くということとさえないものであり、またそのことは、録音を取る側の人間の耳にも及ぶことで、もし彼が歯の痛みを感じていたとしたら、同じ響きも元氣なときとは違って聞こえ



足場をつくり、映像のセクション別の部分撮影をするカラヤン

るだろう。これは常につきまとう問題であるはずである。しかし、私たちがレコード録音をする場合は、問題はずっと簡単で、十分な材料を録音し終った後で、調整室に入って編集の仕事に取りかかるわけだけれども、私たちのチームはもう長年一緒に仕事をしてきて、お互いの仕事の隅々まで知り尽くしているから、まったく問題はない。皆でじっくり聴いてから、もちろん変えるところは変えていく。色々なマイクがあるから、強弱も変えることもできるわけだが、別にこれは調整ではなく、これもひとつの曲の解釈といえる。例えば、マイクが立っている場所での理想的な音を私はレコードに求めるのは決してない。私がレコードに求めるのは、私が客席に座って聴く場合に欲しい理想的な音であって、それは、私がオーケストラを前にして指揮台に立ったときとはまるで異なる響きになるわけ、このホール内での響きを作るのに、私たちは一年半も費やした。以前のいろんな面で欠点のあった教会での録音場所から、今のフィルハーモニーに場所を移してからは、私たちはこの技術的な問題をほぼ解決したといつてさしつかえない。

やつとこれから芸術を造り出せるという感じがするくらいだ。

この「新ヴィーン楽派管弦楽曲集」は、各国の批評家たちから最大級の讃辞をおくられ売り上げを伸ばした。カラヤン自身、ある雑誌のインタビューで次のような表現をおどけてみせた。「八〇〇部も売ればいいと考えたが、発売より三カ月でエッフェル塔の二倍もの高さの部数が売れた。エッフェル塔の二倍もの高さが何組にあたるのかは知らないが、このアルバムは、カラヤンの全レコーディングのなかでも傑出したものとして記憶されていいだろう。

フィルハーモニーザールの音響改善は、最近のこのホールの写真でお気づきの方もあろうが、オーケストラが乗るステージ面を積み重ねて増築し、建設当時のそれよりも数十センチ上がっているのである。また、天井から下がっている反響板の数を減らすことによつて大幅な音響改善に成功したのである。ステージ面をあげるヒントになったのは、映像撮りの際の足場の設置にあつたという。満足のいく音響改善が行なわれたフィルハーモニーザールで、その後ヒルシュのチームに

より積極的な録音が始まることになる。七五年四月二〇日、ベルリンのホテルでカラヤンはポリドール・インターナショナル、EMIの両社と長期の録音契約を締結する。その結果としてこのあと新たな計画が次々と結実してゆくことになる。それらをほぼ録音順に上げてみると、マラーの交響曲第六番、ブルックナーの交響曲全集、三度目になるベートーヴェンの交響曲全集、ヴェルディの序曲・前奏曲全集、モーツアルトの《戴冠ミサ曲》&ブルックナーの《テ・デウム》、モーツアルトの《レクイエム》、チャイコフスキの交響曲全集、モーツアルトの後期交響曲全集、ブラームスの交響曲全集、アンネ・ソフィー・ムターを起用したモーツアルトのヴァイオリン協奏曲第三番&第五番《トルコ風》、バッハのブランデンブルク協奏曲全曲などになる。

またこの時期、これらのレコード・ジャケットのデザインをホルガー・マッティースが担当したことを付け加えておこう。マッティースのデザインはジークフリート・ラウターヴァッサーが撮影したカラヤンの写真が使われる場合とともに、鮮やかなイメージを与えた。「新ヴィーン楽派管弦楽曲集」やベートーヴェンの交響曲全集の分売時、マラー・シリーズの「天空に懸かる虹」やブルックナー・シリーズの「大鳳の翼」などが代表作である。

そしてヒルシュがプロデュースした最後の録音は、エディット・マティースを起用したマラーの交響曲第四番であつた。この後はギュンター・ブレーストに交替し、デジタル録音時代が幕開くのである。

ヘルベルト・フォン・カラヤン=ディスコグラフィ

●ディスコグラフィ制作……………佐々木 豊 [資料提供: D.C.ランボン(英)、鈴木恭司、金井清]

[ディスコグラフィ記載方法]

- (順)は演奏者、収録年月日、収録会場、プロデューサー([P])、ディレクター([D])、レコーディング・エンジニア([E])、マトリックス番号([M])、日本盤・外国盤のレコード番号、特記事項になっている。曲目の前の[V]は映像作品を示す。
- 収録年月日は録音に要した日付であり、実際に使われていないテイクも含んでいる。
- レコード番号はLP(10インチを含む)、CD(CD miniを含む)、LD、MDの順になっており、日本盤は各項目ごと発売順に並んでいる。
- 原則として初出のアルバムごとの配列にし、その中で最も早い録音日をもって記してある。
- アルバムのなかでは、①②③の曲番号を便宜上つけて各々のデータをわけた。また、オムニバス盤ではレコード番号のあとに曲番号を記したが、必ずしも収録順を示してはいない。
- 外国盤のLDの再生方式(PAL/NTSC等)は、ディスク番号のあとに記した。
- 全曲盤よりの抜粋・編集ものは「ハイライト」・「部分」としてまとめたが、各々のLPやCDで収録範囲は同じではない。
- 主な略記号は本誌巻末「新譜CD&LD一覧表」のものを使用している。

LP: MG 1122, 18MG 4648
CD: F28G 22031
②
LP: MG 1122, 18MG 4642
CD: F28G 22187

③
LP: MG 1123, 18MG 4628
CD: F28G 22001, POCG 9251
④
LP: MG 1124, 18MG 4648
CD: F28G 22031

⑤
LP: MG 1125, 18MG 4627
CD: F28G 22002, POCG 9252
⑥
LP: MG 1126, 18MG 4602
CD: F28G 22003, POCG 9253

⑦
LP: MG 1127, 18MG 4642
CD: F28G 22187
⑧
LP: MG 8317-8, 18MG 4627
CD: F28G 22002, POCG 9252

⑨
LP: MG 8317-8, 18MG 4601
CD: F28G 22004, POCG 9254
[インタヴュー]
LP: MI 4016, MI 4017 (+①・②の第1楽章導入部分と第4楽章)

⑩ LP: 2721 200, 2740 172
CD: 429 089-2, 429 677-2
①
LP: 2531 101, 419 048-1
CD: 419 048-2

②
LP: 2531 101, 419 050-1
CD: 419 050-2
③
LP: 2531 103, 2720 111, 415 625-1,
419 049-1
CD: 419 049-2

④
LP: 2531 104, 419 048-1
CD: 419 048-2
⑤
LP: 2531 105, 2740 261, 2720 111,
415 625-1, 419 051-1
CD: 419 051-2, 427 857-2, 435 876-2

⑥
LP: 2531 106, 2720 111, 415 625-1,
415 833-1
CD: 415 833-2
⑦
LP: 2531 107, 419 050-1
CD: 419 050-2
[⑦の第2楽章]
CD: 419 735-2

⑧
LP: 2707 109, 419 051-1
CD: 419 051-2, 427 857-2, 435 876-2
⑨
LP: 2707 109, 415 832-1
CD: 415 832-2, 427 857-2, 435 876-2
(インタ)

LP: 2810 068, 2813 010 (+①・②の第1楽章導入部分と第4楽章)
※大きく3つにわけた録音セッションで日時を
おいて完成された全集。また2721 200はカ
ラヤン直筆サイン、愛蔵家ナンバー入り (ア
メリカ1,000, 日本1,510, イギリス2,000)の
限定盤。さらにリチャード・オズボーンとヨ
アヒム・カイザーとのインタヴュー盤が添付
されている。第9番の合唱部分の補足のため、
77年2月6日にウィーン、ムジックフェライ
ンザールで1日のみのセッションがもたれた。
第4楽章全体をウィーンでの録音とするのは
誤りである。

CD: F66G 50026-7, POCG 2256-7, P
OCG 4046-7
⑩ LP: 2707 106
CD: 415 099-2



▲2707 106(マラー:交響曲第6番「悲劇的」)

⑩ ヴェルディ/歌劇「運命の力」序曲
■ベルリンポ.
▶1975年1月21日ベルリン、フィルハー
モニーザール

⑩ ハンス・ヴェーバー
⑩ ギュンター・ヘルマンズ
M2563 555
⑩ LP: MG 1007
⑩ LP: 2563 555

※「オペラ・スター・チャリティー」という癌
制圧のために企画されたディスクの冒頭にお
さめられた録音。この年の9〜10月に録音の
「ヴェルディ序曲・前奏曲全集」中の「運命の
力」序曲とは別の録音である。

⑩ ベートーヴェン/①交響曲第1番八長
調作品21②第2番二長調作品36③第3
番変木長調作品55「英雄」④第4番変
長調作品80⑤第5番八短調作品67⑥第
6番変長調作品68「田園」⑦第7番イ長
調作品92⑧第8番変長調作品93⑨第9
番二短調作品125「合唱」

■アンナ・トモワ=シントウ(S/⑨), ア
グネス・バルツァ(A/⑨), ベーター
・シュライヤー(T/⑨), ヨセ・ファン
・ダム(Br/⑨), ウィーン楽友協会
cho. (⑨), ヘルムート・フロシャウアー
(合唱指揮/⑨), ベルリンポ.

▶1975年1月23日(①), 24日(①/②),
1976年5月7日(③), 9月22日(⑨),
23日(④/⑨), 10月19日(①/⑥), 20
日(⑤), 21日(②/⑧), 22日(②/⑦),
12月6日(⑨), 1977年1月27日(④/
⑧), 28日(④/⑦/⑨), 29日(①/②),
30日(③), 31日(①~③/⑤), 2月6
日(⑨), 3月8日(①~③/⑤), 9日
(①/⑦)ベルリン、フィルハーモニー
ザール, ウィーン, ムジックフェライ
ンザール(1977年2月/⑨)

⑩ ハンス・ヒルシュ/マクダレーネ・バ
トベルク

⑩ ハンス・ヴェーバー(75-①/②)/ミ
シエル・グロッツ(76-77-①~⑨)/コ
ード・ガーベン(77-①~③/76-77-⑤
/⑦)/ヴェルナー・マイヤー(77/2/6
-⑨)

⑩ ギュンター・ヘルマンズ
M①②2563 795③2563 796④2563 797⑤
2563 798⑥2563 799⑦2563 800⑧⑨25
63 801-2

⑩ LP: MG 8250-7
CD: POCG 2016-21
①

⑩ シューベルト/交響曲第8番短調
D.759「未完成」⑩ ハイドン/交響曲第
104番二長調「ロンドン」

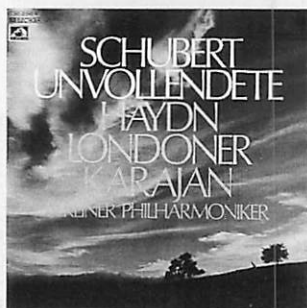
■ベルリンポ.
▶1975年1月(①/②), 12月(②)ベルリ
ン, フィルハーモニーザール
⑩ ミシエル・グロッツ
⑩ ヴォルフガング・ギュリヒ
M02 643 Q

⑩ LP: EAC 80297, EAC 47220-1
①
LP: EAC 47141-2, EAC 77275-9
CD: CC28 3805, CE22 5451-4, CE25
5651, TOCE 7007

②
LP: EAC 80414, EAC 55083
CD: CE25 5626, TOCE 7251
⑩ LP: 1C 065 02 643 Q, 2C 069 02 6
43, S 37058 Q, ASD 3203
CD: CMS 764 563-2

①
LP: 1C 157 03 285-9 Q, 1C 065 03
288 Q, 2C 165 03 285-9 Q, SLS
5127, SE 3862, EG 29 0572-1
CD: CDM 769 016-2, CDM 769 884
-2, CMS 764 563-2, CDM 764
628-2

②
LP: 2C 069 02 643
CD: CDM 769 961-2



▲1C 065 02 643Q(シューベルト:交響曲第8番「未完
成」, ハイドン:同第104番「ロンドン」)

⑩ ブルックナー/交響曲第8番八短調(18
90年ノヴァーク版)

■ベルリンポ.
▶1975年1月20~23日, 4月22日ベルリ
ン, フィルハーモニーザール
⑩ ハンス・ヒルシュ/マクダレーネ・バ
トベルク

⑩ ミシエル・グロッツ
⑩ ギュンター・ヘルマンズ
M2530 648-9
⑩ LP: MG 8198-9, 00MG 0401-11
CD: F66G 50415-6, POCG 2033-41,
POCG 1348-9

⑩ LP: 2707 085, 2740 264
CD: 419 196-2, 429 648-2, 429 677-
2, 439 969-2

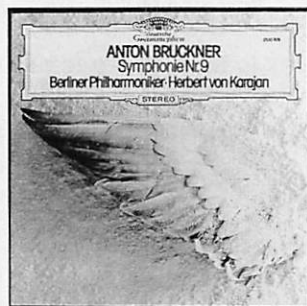
⑩ マラー/交響曲第6番イ短調「悲劇
的」

■ベルリンポ.
▶1975年1月20日, 2月17~20日, 1977
年2月18~19日, 3月9日ベルリン,
フィルハーモニーザール
⑩ ハンス・ヒルシュ/マクダレーネ・バ
トベルク

⑩ コード・ガーベン
⑩ ギュンター・ヘルマンズ
M2530 990-1
⑩ LP: MG 8331-2

◎ブルックナー／交響曲第9番二短調
(原典版)

- ベルリン po.
▶1975年9月13～16日ベルリン、フィルハーモニーザール
□ハンス・ヒルシュ／マクダレーネ・パトベルク
□ミシェル・グロツ
□ギュンター・ヘルマン
M 2810 060
⑧ L P : MG 1057, 00MG 0401-11
C D : F35G 50369, POCG 2033-41, P OCG 1347
⑨ L P : 2530 828, 2740 264, 2543 039
C D : 419 083-2, 429 648-2, 429 677-2



▲2530 828(ブルックナー：交響曲第9番)

◎ヴェルティ／序曲・前奏曲全集 (①歌劇「オベルト」序曲②「にせのスタンラオ」序曲③「ナブッコ」序曲④「エルナーニ」前奏曲⑤「ジャンヌ・ダルク」序曲⑥「アルツィラ」序曲⑦「アッティラ」前奏曲⑧「群盗」前奏曲⑨「マクベス」前奏曲⑩「海賊」序曲⑪「レニヤノの戦い」序曲⑫「ルイザ・ミラー」序曲⑬「リゴレット」前奏曲⑭「椿姫」前奏曲⑮「シチリア島の夕べの祈り」序曲⑯「アロルド」序曲⑰「仮面舞踏会」前奏曲⑱「運命の力」序曲⑲「アイダ」前奏曲)

- ベルリン po.
▶1975年9月22～30日、10月21日ベルリン、フィルハーモニーザール
□ハンス・ヒルシュ
□ミシェル・グロツ
□ギュンター・ヘルマン
M 2530 701-2
⑧ L P : MG 8213-4
MG 1007(18), MGA 9904(18), MG 1216(3/7/9/10/12)～(19)
C D : POCG 2276-7
F35G 20124(3/4/7)～(19), F26G 29041(3/4/15/17)～(19), POCG 7072(3/13/18/19)
⑨ L P : 2707 090, 413 544-1
2531 145(3/9/10/12)～(15/17)～(19), 2463 555(18), 2563 402(18), 2535 555(18)
C D : 439 972-2
419 622-2(3/4/8)～(15/17)～(19), 423 218-2(3/14/15/17)～(19), 423 531-2(17), 423 55 5-2(3/14/15/17)～(19), 429 164-2(3/14/15/17)～(19), 42 9 436-2(3/14/15/17)～(19), 431 185-2(3/4/9/10/12)～(16/19)

- ミシェル・グロツ／コード・ガーベン(①)／ハンス・ヴェーバー(②)
□ギュンター・ヘルマン
M 2531 048
⑧ L P : MG 1224
C D : POCG 2266
②
C D : F28G 50493
⑨ L P : 2531 048
①
L P : 2531 342
②
C D : 423 252-2

◎①ブルックナー／交響曲第7番木長調(原典版)②ワーグナー／ジークフリート牧歌

- ベルリン po.
▶1975年4月14～15日(①), 1977年2月18日(②), 21日(②), 3月9日(②)ベルリン、フィルハーモニーザール
□ハンス・ヒルシュ／マクダレーネ・パトベルク
□ミシェル・グロツ(①)／コード・ガーベン(②)
□ギュンター・ヘルマン
M 2530 918-9
⑧ L P : MG 8261-2
①
L P : 00MG 0401-11
C D : F35G 50386, POCG 2033-41, P OCG 1350
②
L P : 18MG 4507
C D : F66G 50415-6, POCG 2275, P OCG 1348-9
⑨ L P : 2707 102
①
L P : 2740 264
C D : 419 195-2, 429 648-2, 429 677-2
②
L P : 2543 510, 2544 083
C D : 419 196-2, 439 969-2



▲2707 102(ブルックナー：交響曲第7番、ワーグナー：ジークフリート牧歌)

◎ブルックナー／交響曲第4番変木長調「ロマンティック」

- ベルリン po.
▶1975年4月21日ベルリン、フィルハーモニーザール
□ハンス・ヒルシュ／マクダレーネ・パトベルク
□ミシェル・グロツ
□ギュンター・ヘルマン
M 2530 674
⑧ L P : MG 1035, 00MG 0401-11
C D : F35G 50125, F00G 27081, POCG 2033-41
⑨ L P : 2530 674, 2740 264, 2720 111, 5 43 038
C D : 415 277-2, 429 648-2, 429 677-2, 439 522-2



▲2531 103(ベートーヴェン：交響曲第3番「英雄」)



▲MI 4017(インタビュー・レコード)

◎①ウーバー／歌劇「魔弾の射手」序曲②ワーグナー／歌劇「タンホイザー」序曲

- ベルリン po.
▶1975年1月ベルリン、フィルハーモニーザール
芸術総監督：ヘルベルト・フォン・カラヤン
映像監督：エルンスト・ヴィルト
撮影：クルト・ブリュックナー／アクセル・デ・ロッシュ／エルンスト・ストリツィンガー
映像編集：ゲラ＝マリナ・ルンネ
音響：ミシェル・グロツ／ヴォルフガング・ギュリヒ／ロルフ＝ペーター・シュレーダー
□ホーランド・H・ホールフェルト
エグゼクティブ□フリッツ・ブッテンシュテット
⑧ V H D : VHM 68107
L D : POLG 1036
②
L D : POLG 1121
⑨ L D : 072 183-1(PAL), 072 283-1(NT SC)

◎①バッハ／マニフィカト 二長調B.W.V.243②ストラヴィンスキー／詩篇交響曲(1948年改訂版)

- アンナ・トモフ＝シントウ(S/①), アグネス・バルツァ(A/①), ペーター・シュライアー(T/①), ベンジャミン・ラクソン(Br/①), ベルリン・ドイツ・オペラ cho., ワルター・ハーゲン＝グロル(合唱指揮), ブルクハルト・ローデ(obダモール), デヴィッド・ベル(org), フィリップ・モル(cemb), ベルリン po.
▶1975年2月20～21日(②), 21日(①), 1977年12月6日(①), 1978年1月25日(①), 27日(①), 1979年2月19日(①), 21日(①)ベルリン、フィルハーモニーザール
□ハンス・ヒルシュ

◎名演奏家

ディスコグラフィ◎

Herbert von Karajan

ヘルベルト・フォン・カラヤン



指揮者
オーストリア
1908.4.5~1989.7.16

第3期

●第29回●

Knaur®
Biographie
Herbert
von
Karajan
Der Magier
mit dem Takstock



Originalausgabe

Hansjakob Kröber

財団発足まで

連載「指揮棒の魔術師」第九章：財団設立者①

ハンスヤー・コフ・クレーバー著 高橋みき訳・注釈

サン・モリッツのカラヤンの山荘は、

標高一九〇〇m近くに建っていた。その

広大な窓——壁がまるとガラスだった

——は南向きで、標高三四五mの秀峰

コルヴァツチを一望にすることができ

た。この部屋でカラヤンは瞑想し、眠り

仕事をした。彼はここから山岳の景観に

見入り、ここで音楽を——たいていはヘ

ッドフォンで——聴いていた。むろんそ

うしないと周囲の邪魔になるからだよ

と、カラヤンは語っていた。「私はボリュ

ームを最大にして、オーケストラを指揮

しているような気分浸っていた。ご存

知のように、その音量たるや大変なもの

だ！」

ある日カラヤンはこの部屋で、ごく最

近録音したばかりのベートーヴェンの交

響曲第三番をかけていたのだが、それを

聴いて驚愕してしまった。それについて

彼は、一九七八年に『シュテルン』誌の

インタヴューで次のように語っている。

「サン・モリッツの山荘へ行ったとき、

《エロイカ》の葬送行進曲がおそろしくゆ

っくりなことに気がついた。いったいなん

でだろう？ 答えを見つけたまでの三日

間、私は頭が混乱する思いだった。その

答えとはつまり、山岳地帯では脈搏が

速くなるからだといいたのだ。明快

な説明である。少し簡単すぎはしないだ

ろうか？ というのも、カラヤンがサン

・モリッツに見つけ、そこでベルリン・

フィルから選抜した小アンサンブルとレ

コード制作をしていた室内楽用会場で録

音する作品群についてはどうか、という

疑問が残るからである。もしも奏者たち

が平常よりも速く演奏するなら、その録

音は平地では、普通の、高地でよりもゆ

っくりとした脈搏のゆえに、せきたて

られるように速く聴こえるのだろうか？

ここにもうひとつ別な例がある。ベル

リン・フィルに、ある若い才能豊かなフ

ルート奏者が在籍していたが、彼の脈搏

は極度に難しい演奏箇所の前では二二

〇にまではね上がったのだ。——

「……彼はそこを吹きこなせることが自

分でわかつていにもかわらず、そう

なんだよ。カラヤンは語ったものだ。ま

た、彼を自分のもとにさせ、健康が危

険にさらされているので何か対策を講じ

るべく注意を与えるということもしたの

だった。

さらにもうひとつ、カラヤンが語った

例がある。「私は十九歳のピアニストの面

倒を見ているが、彼の脈搏は特別に早

い。あるとき私は彼の胸に耳をくっつけ

て、彼の鼓動のリズムに合わせてラヴェ

ルの《ボレロ》のリズムを打った。——

そしてそれからリズムをゆっくりにして

いくことを行なった。脈搏は一二六か

らメトロノームの打つ八〇にまで下が

っていった。彼の心臓の鼓動はどんな



サン・モリッツ山荘でスコアを読むカラヤン



ハンス・ハインツ・シュトゥッケンシュミットとの対談(1955年4月27日、ベルリン)

ゆつくりになったが、私がテンポを遅くするのをやめたとき、脈は再び速くなった。リズムの影響とは、こんなにも強いものだ。

最後に、指揮者カラヤン自身を例として挙げよう。数十年間にわたるヨガの呼吸トレーニングによって、彼は自分の体を「掌握」することができた。「私は極度の興奮状態に陥ったときにも呼吸をコントロールできるし、それでもって緊張を緩和できるのだ。彼は生前語っていた。

「私はヨガの呼吸法で脈搏を四二まで下げることができる。そのおかげで私は鋭敏さを保つことができ、リズムに順応することができ」。

巨匠ヘルベルト・フォン・カラヤンは常に好奇心に満ちあふれていた。子供のよう何でも知っていた。彼は一九五九年のウィーン・フィルとの演奏旅行の際、東京の空港の売店で最新の電気

仕掛けの玩具で数時間遊んだこともあれば、どのように人が音楽を感じ取り、また音楽は何をもたらしているのかといったことが、音楽と相まってどのように機能しているのかを実際に知ろうと欲していたのだ。

「私はウォルト・ディズニーによる工学や植物学についての本も楽しんで読んでいる。そのなかでは、人が長らく忘れていたことがまったく単純に語られているからだ」と、六八年五月に「ジュピーゲル」誌上の対談で、彼は率直にかつ楽しそうにしゃべっている。またそこでは、計画中の「ヘルベルト・フォン・カラヤン財団」が唯一の懸念事項として語られていた。そこでは世界中から最高の専門的知識を身につけた科学者や医師たちが集められ、ノーベル賞の受賞者たちも擁され、彼らは皆、具体化できる成果を目指して努力することが要請されていた。

それはカラヤンがいつもやるところの、ベストの人々のなかからさらにベストの人材を選抜するというものであった。具体化の可能な研究テーマとは、音楽は、健康な人々、病人、胎児、子供、成人、正常者、異常者に対してどのような影響を持つか、といったことであった。

音楽が人間に影響を及ぼし得るという認識自体は新しいものではなく、古くからあるものだ。音楽は唯一の目的のみならずいくつものこと、すなわち徳の涵養や、興奮をホメオパシー(注1)によって除去することにも使われていることを、私たちは主張するものです。この言葉は、すでに古代ギリシアの哲学者アリストテ

レスによって書かれている。カラヤンはいつもそうしていたようにこの言葉も伝説を持ち出すことで完全なものにした。

「ギリシアの総指揮官アガメムノーンがトロイアに向かって進撃して行ったときに、ひとり笛吹きを残して出陣したことが伝えられている。あるメロディを絶え間なく吹いて、彼女に貞潔を守らせるというのが彼の任務だった。だがおそらく彼の演奏は効を奏さなかったに違いない。彼女は貞潔を守るところか、アイギストスと通じてしまったからだ……」。その笛吹きがただ調性を間違えたに過ぎないということも、あるいは考えられる。

というのも古代ギリシア人たちは当時すでに、人間に不都合な影響を及ぼす調性が存在することを確かめていたからである。——そのような調性は罰則によって禁じられていた。音楽の積極的な側面については、旧約聖書のなかでも語られている。サウル王が堅琴のすばらしい演奏によってうつ病から救われたという故事(注2)である。またギリシアの哲学者プラトンは、音楽に、心身両面にわたる健康にとっての何か根本的なものとしての価値を認めていた。打楽器群によるリズムは、未開民族だけを神がかり状態に持つてゆくのではない。行進曲がどれほど大きな大衆心理学的効果を持つているかは、誰もが知っているとおりである。だがどうしてなのだろう。その理由は何かのか? 科学的に裏付けられた説明は、六八年においてはなお不十分なものであった。より広い基盤に立つた、必要

とされる諸研究はまだ行なわれてはいなかった。——費用がかかったからである。研究費が不足していたのだ。そこで知識欲旺盛なカラヤンが資金を投入した。つまり、ザルツブルクを本拠に「ヘルベルト・フォン・カラヤン財団」を設立したので。六九年三月十一日付けの定款は、

オーストリア連邦文部省によって同年九月三日、(ZT.113.984-III/2.69)のナンバーのもとに受理された。「私は内なる衝動にかられて、この事業をなすべきこととして選び出しました……。音楽と音楽を仕事とするということの両者は、これまで私にあまりにも多くのものを与えてくれたので、この贈り物を少しでもお返ししたいという気持ちでいっぱいだったのです。私は、ザルツブルクとベルリンに財団を設立しようと思いつくに至りました」とは、カラヤンのコメントである。そのときに彼は、その驚異的な記憶力によって、五五年四月二十七日にベルリンの放送塔のレストランで、戦後の音楽批評界の最長老ハンス・ハインツ・シュトゥッケンシュミットと行なった対談を憶えていたのだろうか? シュトゥッケンシュミットのほうはそれについて、回想録「聴くために生を受けた」(注3)のなかで次のように語っている。「私たちは……クラシック音楽界の後継者問題、それを解決するためフルトヴェングラーが実現可能な構想なしに財団を設立しようと思っていた、その当の問題について話し合った。この対談は、くしくもヘルベルト・フォン・カラヤンをヴィルヘルム・フルトヴェングラーの後任者として、ベ



ルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者に終身にわたり選任するという契約の署名の翌日に行なわれたものだ。

「私は一般に理解されている指揮者とは根本においてまったく違います」と、七七年の『ヴェルト・日曜版』のインタビューでは明言している。私はこれまでいつも自分の職業を多面的なものとして捉えてきました。その際、音楽はどのように成立するのか、音楽教育はいつもどのようにしてより重大な役割を果たすのか、といった問題について研究を行ないました。前者のためには私の財団の枠内に研究機関を設置し、後者のためにはベルリンで指揮者コンクールを行なっています。

ここでベルリン・フィルのオーケストラ・アカデミーを補足しておきたい。これはカラヤンの主導による、高度の専門技術をもつた指揮者と演奏家の後継者のための学校である。指揮者コンクールには、十一・十九歳のメンバーで構成される全世界からの青少年オーケストラのコンクールがさらに付け加わった。

——六九年以後は、両コンクールは毎年交互に行なわれるようになった。指揮者たちと同様、彼らも賞を競うのである。三・四人の世界的な専門家たちが、彼らのなかから最大の才能を選び抜き、そして選ばれた者たちは、その後世界中からのメンバーで構成されたオーケストラに編成される。その際、国籍や肌の色は考慮されない（可能な場合にはカラヤン自身が、閉会コンサートでそれを指揮するのである）。

そのことについてカラヤンは、「彼らが



青少年オーケストラのコンクール閉会式でのカラヤン

どれほどの愛をもつて互いに音楽のなかにいるか、また言葉や考えから来る対立も音楽によつていかに完全に解消されてゆくか、それらは実に感動的な光景です。彼らが理想郷にいるかのように思うほどに、彼らをひとつにさせること。それこそは、私の気持ちをそそぐてやまない課題なのです」と語った。

フルトヴェングラーの着想は、ライブ



第3回指揮者コンクール受賞式(1973年11月26日)

アルの、音楽上の「敵」のものなのだろうか？ 女性ジャーナリストのカルラ・ヘッカーと妻エリザベートによつて書きとめられた、彼の対談(注4)や思想の表明を読み返すなら「フルトヴェングラーの言ったことはカラヤンに由来していた」という結論——事実はその逆なのだが——に達するに達しない。誰もが独自の方法で行なおうとするが、その基本的な内容は先人の着想に酷似しているものである。(つづく)

〔注釈〕

(1) 類似療法ともいう。ある薬剤を健康人に与えると、なんらかの症状を発現する。これを確かめておき、同じような症状を示す病気に対してこの薬剤を微量服用させ、治療しようとするものである。

(2) 旧約聖書『サムエル記』第十六章。

(3) Hans Heinz Stuckenschmidt『Zum Hören geboren』シエン・ヘン・ビーエル社一九七九年、二六五頁。

(4) ヴィルヘルム・フルトヴェングラー——邂逅と対話 Wilhelm Furtwängler Begegnungen und Gespräche. ヘルリン・レンブラント社、一九六一年。フルトヴェングラーとの対談『音楽の友社、蘭田宗人訳』

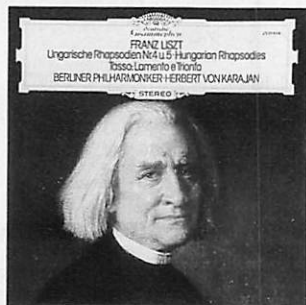
ヘルベルト・フォン・カラヤン=ディスコグラフィ

●ディスコグラフィ制作……………佐々木 豊 [資料提供:D.C.ランボン(英), 鈴木恭司, 金井清]

〔ディスコグラフィ記載方法〕

- 順序は演奏者、収録年月日、収録会場、プロデューサー(〔P〕)、ディレクター(〔D〕)、レコーディング・エンジニア(〔E〕)、マトリックス番号(〔M〕)。日本盤・外国盤のレコード番号、特記事項になっている。曲目の前の〔V〕は映像作品を示す。
- 収録年月日は録音に要した日付であり、実際に使われていないディスクも含んでいる。
- レコード番号はLP(10インチを含む)、CD(12インチを含む)、LD、MDの順になっており、日本盤は各項目ごと発売順に並んでいる。
- 原則として初出のアルバムごとの配列にし、その中で最も早い録音日をもって配してある。
- アルバムのなかでは、①②③の曲番号を便宜上つけて各々のデータをわけた。また、オムニバス盤ではレコード番号のあとに曲番号を記したが、必ずしも収録順を示してはいない。
- 外国盤のLDの再生方式(PAL/NTSC等)は、ディスク番号のあとに記した。
- 全曲盤よりの抜粋・編集ものは〔ハイライト〕・〔部分〕としてまとめたが、各々のLPやCDで収録範囲は同じではない。
- 主な略記号は本誌巻末「新譜CD&LD一覧表」のものを使用している。





▲2530 698 (リスト:ハンガリー狂詩曲第4&5番、交響詩「タッソー」)

◎チャイコフスキー／交響曲第5番短調作品64

■ベルリン po.

▶1975年10月22日ベルリン、フィルハーモニーザール

P ハンス・ヒルシュ／マクダレーネ・バトベルク

D ミシェル・グロツ

E ギュンター・ヘルマン

M 2530 699

L P: MG 1019, MG 8376-81, 18MG 4 637, POJG 9003

C D: F28G 22047, F00G 20267-70, F 00G 27065, POCG 2261-4, POC G 9341-9

L P: 2530 699, 2720 104, 2720 112, 2 740 219, 2740 246, 2543 048, 41 9 066-1

C D: 419 066-2, 423 504-2, 426 504-2, 429 675-2, 429 677-2

◎チャイコフスキー／ピアノ協奏曲第1番変ロ短調作品23

■ラザール・ベルマン (p), ベルリン po.

▶1975年11月17~18日ベルリン、フィルハーモニーザール

P ハンス・ヒルシュ／マクダレーネ・バトベルク

D ミシェル・グロツ

E ギュンター・ヘルマン

M 2530 677

L P: MG 1001, 18MG 4569

C D: F26G 29026, POCG 2291, POCG 9265

L P: 2530 677, 2720 112, 2543 050, 4 10 978-1, 827 069

C D: 423 224-2, 423 555-2, 427 860-2, 429 166-2



▲827 069 (チャイコフスキー:ピアノ協奏曲第1番)

◎ストラヴィンスキー／バレエ「春の祭典」

■ベルリン po.

▶1975年12月3~4日, 1976年12月10日, 1977年1月30日ベルリン、フィルハーモニーザール

20~21日(3), 1977年9月27~28日(1)~(3) ベルリン、フィルハーモニーザール

P ミシェル・グロツ

E ヴォルフガング・ギュリヒ

M 53 060-3 Q

L P: EAC 77271-4

①

L P: EAC 80480

C D: CE28 5184

②

L P: EAC 80481

C D: CE28 5184

③

L P: EAC 80482, EAC 47238-9

C D: CE28 5183

④

L P: EAC 80370

C D: CE28 5183, CE25 5676

L P: 1C 157 03 285-9 Q, 1C 157 53 060-3 Q, 2C 165 53 060-3, SLS 5112, 29 10613

C D: CZS 252 172-2

①

C D: CDM 769 334-2

②

C D: CDM 769 334-2

③

C D: CDM 769 335-2, CZS 767 856-2

④

L P: 1C 065 03 853 Q, 2C 069 03 8 53

C D: CDM 769 335-2, CZS 767 856-2



▲29 10613 (ベートーヴェン/ピアノ協奏曲全集)

◎リスト／①ハンガリー狂詩曲第4番②第5番③交響詩「タッソー」(悲劇と勝利) S.96

■ベルリン po.

▶1975年10月20~21日, 11月13日ベルリン、フィルハーモニーザール

P ハンス・ヒルシュ／マクダレーネ・バトベルク

D ミシェル・グロツ

E ギュンター・ヘルマン

M 2530 698

L P: MG 1031

C D: F66G 50354-5, POCG 2285

①

C D: POCG 7034

②

C D: POCG 7034

L P: 2530 698, 2726 517, 415 628-1

C D: 415 967-2

③

L P: 2535 110, 2535 175

C D: 429 156-2

④

L P: 2726 517, 413 587-1, 415 628-1

C D: 413 587-2, 429 156-2

⑤

◎①モーツァルト／ミサ曲ハ長調 K.317「戴冠式ミサ曲」②ブルックナー／テ・デウム

■アンナ・トモワ＝シントウ (S), アグネス・バルツァ (A), ヴェルナー・クレン (T) ①, ペーター・シュライアー (T) ②, ヨセ・ファン・ダム (Br), ウィーン楽友協会 cho., ヘルムート・フロシャウアー (合唱指揮), ルドルフ・ショルツ (org), ベルリン po.

▶1975年9月26日(1/2), 27日(1), 29日(2), 1976年5月28日(2) ベルリン、フィルハーモニーザール

P ハンス・ヒルシュ／マクダレーネ・バトベルク

D ミシェル・グロツ

E ギュンター・ヘルマン

M 2530 704

L P: MG 1041

C D: POCG 2271

①

C D: POCG 2182-4, POCG 9101-40

② 2530 704

①

L P: 2531 342

C D: 423 913-2, 429 800-2, 429 820-2

②

C D: 429 980-2

※ジャケット写真はザルツブルクのマリア・ブライン巡礼聖堂の聖母像である。



▲2530 704 (モーツァルト:戴冠式ミサ曲, ブルックナー:テ・デウム)

◎モーツァルト／レクイエム 二短調 K. 626

■アンナ・トモワ＝シントウ (S), アグネス・バルツァ (A), ヴェルナー・クレン (T), ヨセ・ファン・ダム (Br), ウィーン楽友協会 cho., ヘルムート・フロシャウアー (合唱指揮), ルドルフ・ショルツ (org), ベルリン po.

▶1975年9月27~28日ベルリン、フィルハーモニーザール

P ハンス・ヒルシュ／マクダレーネ・バトベルク

D ミシェル・グロツ

E ギュンター・ヘルマン

M 2530 705

L P: MG 1029

C D: POCG 2182-4, POCG 9101-40, POCG 2272

L P: 2530 705, 419 867-1

C D: 419 867-2, 429 160-2, 429 800-2, 429 821-2

◎ベートーヴェン／①ピアノ協奏曲第1番ハ長調作品15②第2番変ロ長調作品19③第3番ハ短調作品37④第4番ハ短調作品58

■アレクシス・ワイセンベルク (p), ベルリン po.

▶1975年9月4~6日(4), 1976年9月

ン」作品62「エグモント」作品84序曲

■ベルリン po.

▶1975年ベルリン、フィルハーモニーザール

芸術監督：ヘルベルト・フォン・カラヤン

演出：ヘルベルト・フォン・カラヤン

映像監督：エルンスト・ヴィルト

音響：ミシェル・グロツ

音響：ヴォルフガング・ギュリヒ／ロルフ・ペーター・シュレーダー

映像編集：ゲラ＝マリナ・ルンネ

撮影：クルト・ブリュックナー／アクセル・デ・ロッシュ／エルンスト・ストリツィン

プロダクション・マネージャー：ホーランド・H・ホルフェルト

エグゼクティブ：フリッツ・ブッテンシュテット

Ⓜ VHD VHM 68107

LD POLG 1007-10, POLG 1068

⑧ LD 072 131-1(PAL), 072 231-1 (NTSC)

▽①②ロッシェニ／歌劇「ウィリアム・テル」序曲②ワーグナー／「ニュルンベルクのマイスタージンガー」第1幕前奏曲

■ベルリン po.

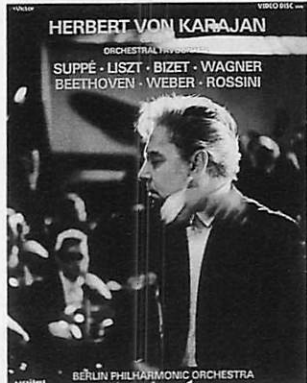
▶1975年ベルリン、フィルハーモニーザール

芸術監督：ヘルベルト・フォン・カラヤン

Ⓜ ホーランド・H・ホルフェルト

Ⓜ ①

VHD VHM 68107



▲VHD VHM 68107(ロッシェニ：歌劇「ウィリアム・テル」序曲、ワーグナー：歌劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」第1幕への前奏曲他)

補遺・訂正

つぎのライヴCDが確認されましたので補遺いたします。

①モーツァルト／協奏交響曲変ホ長調K. Anh.9

■カール・スタインス(ob), カール・ライスター(cl), ゲルト・ザイフェルト(hrn), マンフレート・ブラウン(fg), ベルリン po.

▶1976年10月16日ベルリン、フィルハーモニーザール

Ⓜ CD : LCB 104

訂正・削除

65年12月のR.シュトラウス／交響詩《ドン・キホーテ》の⑧ LP : LPM 39 004, SLPM 1 39 004をLPM 39 009, SLPM 139 009に訂正いたします。また、66年10月のチャイコフスキー／弦楽セレナードの⑧ CD : 431 601-2, 431 605-2を削除いたします。

CD : 435 592-2

⑦

LP : 2720 104, 2720 111, 2531 138, 2 543 023

CD : 423 210-2, 423 555-2, 429 432-2, 435 592-2



▲2531 138(モーツァルト：交響曲第40 & 41番「ジュピター」)

①ワーグナー／歌劇「ローエングリン」

■カール・リッターブッシュ(Bs : 国王ハインリヒ), ルネ・コロ(T : ローエングリン), アンナ・トモワ＝シントウ(S : エルザ), ジークムント・ニムスゲルン(Br : テルラメント), ドウニャ・ヴェイソヴィチ(S : オルトルート), ロバート・カーンズ(Bs : 軍令使), クラウス・ラング(貴族), ペーター・マウス(貴族), マルティン・ヴァンティン(貴族)ヨゼフ・ベッカー(貴族), ベルリン・ドイツ・オペラcho., ウルター・ハーゲン＝グロル(合唱指揮), ベルリン po.

▶1975年12月8～11日, 1976年3月3～8日, 1981年5月22～23日ベルリン、フィルハーモニーザール

Ⓜ ミシェル・グロツ

Ⓜ ヴォルフガング・ギュリヒ

Ⓜ 43 200-4

Ⓜ LP : EAC 87022-6

CD : CE30 5227-30, TOCE 6366-9

⑧ LP : 1C 165 43 200-4, SLS 5237, SELX 3829, EX 769 314-1, 2C 165 43 200-4

CD : CMS 769 314-2

[ハイライト]

LP : 061 290 504-1

CD : CDM 763 453-2

[部分]

CD : CDM 769 338-2, CDC 749 828-2, CZS 252 159-2, CDM 763 5 57-2

※カラヤンとコロの意見の相異から最終セッションが81年5月まで持ちこされる。ドイツ盤1C 165 43 200-4と日本盤EAC 87022-4 は82年12月新譜、イギリス盤SLS 5237 は83年1月新譜である。



▲2C 165 43 200-4(ワーグナー：歌劇「ローエングリン」)

▽①ベートーヴェン／①序曲「コリオラ

②ハンス・ヒルシュ／マクダレーネ・パトベルク

③ミシェル・グロツ

④ギュンター・ヘルマンズ

Ⓜ 2530 884

Ⓜ LP : MG 1088

CD : F35G 50377, POCG 2283

⑧ LP : 2530 884, 2720 112, 2543 064

CD : 415 979-2

①モーツァルト／①交響曲第35番二長調K.385「ハフナー」②第32番ト長調K.318③第36番ハ長調K.425「リンツ」④第38番二長調K.504「プラハ」⑤第39番変ホ長調K.543⑥第40番ト短調K.550⑦第41番ハ長調K.551「ジュピター」

■ベルリン po.

▶1975年12月5日(⑤), 1976年5月10日(⑦), 25日(①/⑥), 26日(①/⑦),

1977年2月17日(⑥), 21日(④), 10月17日(③/④), 18日(②/④)ベルリン、

フィルハーモニーザール

②ハンス・ヒルシュ／マクダレーネ・パトベルク

③ミシェル・グロツ(①～⑤/⑦)/コード・ガーベン(⑥)

④ギュンター・ヘルマンズ(①/④～⑦)

Ⓜ 2563 951-3

Ⓜ LP : MG 8335-7

CD : POCG 2028-30

①

LP : MG 1181

CD : POCG 7051

②

LP : MG 1181

CD : POCG 2151-4, POCG 9101-40

③

LP : MG 1181, 18MG 4502

CD : POCG 2151-4, POCG 9101-40

④

LP : MG 1182, 18MG 4502

CD : POCG 9266

⑤

LP : MG 1182

CD : POCG 2151-4, POCG 9101-40, POCG 9266, POCG 7051

⑥

LP : MG 1183

⑦

LP : MG 1183

CD : F26G 29040, POCG 9054-5

⑧ LP : 2740 189, 2740 244

CD : 429 668-2, 429 677-2

①

LP : 2720 104, 2531 136, 419 864-1

CD : 435 070-2

②

LP : 2720 104, 2531 136, 419 864-1

CD : 429 800-2, 429 804-2, 435 070-2

③

LP : 2531 136, 410 840-1, 419 864-1

CD : 429 800-2, 429 804-2, 435 070-2

④

LP : 2720 104, 2720 111, 2531 137, 2 543 022, 410 840-1, 419 478-1

CD : 419 478-2, 429 800-2, 429 802-2

⑤

LP : 2720 104, 2720 111, 2531 137, 2 543 022, 419 478-1

CD : 419 478-2, 429 800-2, 429 802-2

⑥

LP : 2720 104, 2720 111, 2740 261, 2 531 138, 2543 023

◎名演奏家
ディスコグラフィ◎

Herbert von Karajan

ヘルベルト・フォン・カラヤン



マニピレーター 操縦者

連載「指揮棒の魔術師」 第九章：財団設立者② ハンスヤー・コプクレーバー著 高橋みき訳・注釈

好奇心旺盛な財団設立者カラヤンにとって、財団の研究者たちに自分自身を実験のウサギとして供することは惜しくなかった。それどころか彼は進んで指揮するときや音楽の鑑賞中に、心電計や脳波の測定機器に自ら連結されたのである。彼はヴァリウムを飲み下して、静かで安定した気持ちになっても音楽的な成果はひどく劣ったものになるということ

を、身をもって確認した。またあるときなどは、研究のためにハシツシユ（大麻）、コカイン、アヘンといった強い麻薬を服用しようとしたが、彼のおかかえの医師たちがあわてて思いとどまらせたため、いくつもの肉体的ハンディキャップに苦しみ、病気をベストのように思ひ嫌っていたカラヤンはようやくこの実験を断念したのだった。

一九六九年のイースター音楽祭での《ジークフリート》の本稽古の間、カラヤンは自分の身体機能の電気測定を行ない、そのデータは医学者であるハラー教授とジーン博士によって分析された。その結果、心臓と血行に負担をかけるのは音楽の劇的で感情的なクライマックスではなく、激しさを増す身体運動でもなく、むしろその反対で、休止のときの緊張の瞬間や、音楽的にほとんどなにも行わないように見えるときこそ、精神的な期待が極端な場合には血圧を急激に三〇から四〇も上げることがつきとめられたのである。指揮者ヨーゼフ・カイルベルト（注一）は六八年、ミュンヘンのバイエルン国立劇場で《トリスタンとイゾルデ》の第二幕の途中、指揮台で息をひきとった。彼の心拍を停止させたのは、トリスタンがピアノで「離れ離れにならないようずっと永遠にひとつとなつ

て死んでゆきましょう……」と歌い出す、その直前の緊張であつたようだ。

アメリカの著名な雑誌『メディカル・トリビューン』は七五年、その国際的ジャーナリスト、A.M. サックラー博士を通じてニューヨークでカラヤンにインタビューし、音楽の生理学的機能に及ぼす効果を裏づける新たな実例について質問した。以下はカラヤンの回答である。「先ごろ私はベイルートでベルリン・フィルを指揮しました。ベイルートの高地は、かつてローマ帝国最大の穀倉地帯だったところ。その地で私は、興味深い発見をした人に出会いました。彼は音楽家でもある農場主で、乳牛を使って音楽の効果を探るための実験をしていました。それをおして、音楽を聴かせた牛が良質の乳をたくさん出すことを確かめたのです。その実験は、使用する音楽がすぐれているほど、より良い結果をはっきり示しました。最高の成果はモーツァルトの音楽によつてもたらされたのです」。

この言葉は冗談のように聞こえるかもしれない。だがアメリカの心臓外科医ウィリアム・C・ドゥーフリーズ博士は、ルイヴィル（ケンタッキー州）のオーデューボン博愛病院で、その最も困難な手術を行なうときにはヴィヴァルディの音楽をテープで流させているのである。彼は

特別に複雑な手術を終えたとき、「音楽がなかったなら、私はこの手術を耐え抜くことはできなかっただろう」と語った。彼は冗談を言ったのではない。

マエストロ・カラヤンの関心呼び起こしたのは、しかしながら、音楽が指揮者たちや、指揮者たちを通じて聴き手ならびに音楽の《Manipulator》（操縦者）（カラヤンのお気に入りの言葉。これに



《ジークフリート》リハーサル中のカラヤン



ヨーゼフ・カイルベルトとともに(1952年、バイロイト)

ついでには後ほど述べることにする) たちに及ぼす効果だけではなかった。彼はまさに、オーケストラの団員たちの魂の底にまでもわけ入ろうとしているのだ。

「オーケストラとはまさしくひとつの巨大な神秘です」と、カラヤンは八〇年、オランダの雑誌『デイスク』のインタビューで語っている。「オーケストラの心理学は、これまで究明されてこなかった現象のうちで最も興味深いもののひとつと言えるでしょう。メンバーたちはどのように考え、どのように一致するのでしょうか? まずはヴァイオリンの非常に速いパッセージを思い浮かべて下さい。ヴァイオリニストたちは離れてすわっているの、最後の列の奏者は最前列の奏者の演奏を聴くことなどとても不可能です。しかもいくつかの作品では、彼らは一秒間に、物理学的に想定して人間の聴覚によつてどうにか識別され得る数——毎秒約十九音(序曲『レオノーレ』第三番のフィナーレ)——の音符を弾くのです。

これはコンピュータで検査することが可能です。一糸乱れぬ総奏のときは、完全な左右対称の画像がモニターに現れますが、実際にそうなるのです。けれどもどのようにしてそれが実現するのでしょうか? それに対する答えは、ドイツの友人に質問されたイギリス紳士の返答に少しばかり似た展開をするのではないのでしょうか。『その見事な芝生が絨毯のように見えるまでにするため、君はどんな工夫をしているんだい?』と尋ねられて、『あら、こうやって毎週刈り込みをして、数回ローラーで地ならしをするというのを、まる六百年続けるのさ!』と答えたということだ。

「オーケストラにとつては、団員たちが一緒にすわっている期間の長さがこれに相当するでしょう。普通は席順が決まっています。そして各自は、仲間の背中に彼が何をしようとするのかを読みとっているのです。それでオーケストラは、鳥の飛翔におけるような行動をとる媒体で

あると言えます。鳥が群をなして飛ぶとき、ぶつかることは決してありません。鳥たちは集団の感情を持っているのです。私はよくそれを何時間も眺めます。鳥たちには不安な要因などにもありません。オーケストラもまたしかり。ある特別の瞬間から、これら百二十名の人々は一箇の統一された精神を形成します。彼らは共通の意志によつて魂を吹き込まれるのです。まず良い演奏をするために、そして今まさに起こらんとすることへの期待によつても。そのようにして彼らは、指揮者のごくわずかな不安をもお互いに解決し合つてゆきます。彼らは、失敗しないかという不安にかられる個人の集まりではありません。けれども彼らは全体の流れに従うということにたたき込んでいるために、多くの作品では失敗することはありえません。指揮者とオーケストラは一緒にあり、一体なのです。このことは、指揮することとは全然関係ありません。それをやるに越えたものなのです。

オーケストラの心理学——その秘密を明らかにすることにカラヤンはそられていた。彼が十年以上も費した著作(注2)の第一章は、この秘密のために献呈されている。この著作については、「毎日十二行ずつ活字で手書きをした。トーマス・マンのようにね」と、語ったことがある。活字で書く理由は、「じやない」と自分で読めないからなんだよ」と語っていた。最初は口述筆記させようとしていたのだが、彼独自のやり方——「私は狂信的な言語学者である」——による記録文書を読んでいたとき、筆記させたこ

とに愕然としてしまった。むしろ手書きの草稿に磨きをかける方が——最後には完璧になるのだから——好ましいと、彼は思った。さもなくばカラヤン自身の文章とは見なされないだろう、と。

「manipulieren(操縦する)」という言葉に再び立ち返ろう。この言葉は、カラヤンの音楽に関する発言に総論・各論を問わず一貫して現われているものだ。

「あなたは音楽を操縦しているのですか?」この問いかけは七八年、『フオノフォルム』誌上でヘルベルト・W・ミューラからカラヤンになされたものである。

この質問は、彼のメディアの技術に対する積極性に直面しては、専門のジャーナリストたちや素人たちが何度も発せられたものである。そしてカラヤンは何度と同じように答えてきた。「操縦する」とは何を意味しているのでしょうか? 直訳するなら「道具を使う」という意味です。家具職人は机をなめらかにするために、かんをを使います。

納得のゆく答えのようだが、簡単すぎる。カラヤンの裏付けは、けれどもさらに続いてゆく。いったい操縦されないものがあるでしょうか? 作曲家の頭の中だけで操縦されているのではありません。彼はひとつの芸術作品の形で表現しようとしている、強弱の(圧力)容量を自由に使えるからです。すべては、まだ彼の頭の中にあるうちに演じられます。だが彼が鉛筆を手取る瞬間には、彼はもう操縦しているのです——彼のアイデアを。カラヤンはそこで、手書きの楽譜が価値を持っていることを引き合

出した。楽譜の草稿はそれ自体としては、最も不確かなものである。

カラヤンは意見を続ける。「楽譜が決定されて印刷されても、ここでまた操縦されます。特定のリズムで突然二小節ぶん印刷されたページに押し込まれねばならないからです。それでそれらの小節は他のよりも窮屈に置かれ、窮屈な小節はオーケストラも速く演奏します。これは見た目に左右されることで、珍しくもない話です。また副次的なことですが、オーケストラの音色が演奏に応じて決められ印刷されていたなら、きつとりハーサル時間の半分を節約できるだろうと確信します」。

彼の話はさらに広がってゆく。「さて、オーケストラの中の奏者を考えてみましょう。彼は自分の楽器を操縦しなければなりません。彼が例えば木管奏者なら、管の鍵を押さえるだけでなく、吹奏法をも意のままにしなければなりません。音色を探り出さなければならぬのです。そして全体はというと、指揮者によって操縦されるのです」。

カラヤンは当然、コンサート・ホールが音響を「操縦する」——音響を美しくしたり歪ませたりする——ことを主張する。コンサート・ホールでは、同一の音響効果を有する最上の座席は十に満たない。これらの座席に聴衆はすわり、彼らの耳に音響は到達する。「この聴き手がコンサート・ホールの直前に怒りの発作を起こしたか、夫婦げんかをしたのか、彼の歯が痛むのか、はたまた逆にとってもいい気分なのか、どうして私にわかるのでしょうか？」



モニター・ルームのカラヤン

カラヤンは問いかけている。「ここでもまた今度は健康と気分から、聴き手の印象が操縦され直すのです。それゆえに、この言葉は無に帰してしまいます。そこでただ、私たちはこれらのことをできるだけよい方向に持つてゆくよう配慮していると、言うことは可能でしょう。——私は今レコードの録音について話しているのですが——数多くの様々なミキシングをやってみて、自分のオーケストラで聴いているような音響イメージを持つているということとは、はつきりしているからです。それで私は、この録音を聴く人は誰でもまさしく私の響きを聴いているの

だと、確信を持っているのです！。ヘルベルト・フォン・カラヤンは再生の技術面において、ディレクターやレコーディング・エンジニアと一緒に、少なくともオーケストラと行なったりハーサル及び録音に費したのと同じ長さの時間をかけたということ、私たちはこの際知っておかねばならない。彼は大多数の著名な指揮者たちとは本質的に異なっていたのである。理由は簡単で、彼は「へかん」を（失礼）、この技術を使いこなしたからである。（つづく）

〔注釈〕

（一）一九〇八年カールスルーエ生まれ。二五年カールスルーエ市立劇場の練習指揮者となり、三五年音楽総監督に就任。四〇年フルトヴェングラーの推薦を得てプラハに創設されたドイツ・フィルハーモニーの初代指揮者となった。四五年同楽団が西ドイツに移ってバンベルク交響楽団となると、常任指揮者に就任した。四五年からドレスデン国立歌劇場の音楽監督をつとめ、五二年からバイロイト音楽祭にたびたび客演した。それ以外にもザルツブルク音楽祭やルツェルン音楽祭に出演し、ドイツ的な重厚さと豊かなロマン性に溢れた演奏で一世を風靡した。五九年バイエルン国立歌劇場の音楽総監督に就任。NHK交響楽団にもしばしば客演し、名誉指揮者の称号を受けた。

（二）九二年にハンブルクのホフマン・ウン・カンペ社から刊行されたフランツ・エン・ドラーによる『カラヤン——ひとつの伝記』KARAJAN: Eine Biographieの第七章に取められており、「第一章」は「Die Probe（リハーサル）」という題が付けられている。邦訳は「カラヤンの生涯」（福武書店、高辻知義訳、一九九四年）。

ヘルベルト・フォン・カラヤン=ディスコグラフィ

●ディスコグラフィ制作……………佐々木 豊 【資料提供：D.C.ランボン（英）、鈴木泰司、金井清】

〔ディスコグラフィ記載方法〕

- 順序は演奏者、収録年月日、収録会場、プロデューサー〔P〕、ディレクター〔D〕、レコーディング・エンジニア〔E〕、マトリックス番号〔M〕、日本盤・外国盤のレコード番号、特記事項になっている。曲目の前の〔V〕は映像作品を示す。
- 収録年月日は録音に要した日付であり、実際に使われていないディスクも含んでいる。
- レコード番号はLP（10インチを含む）、CD（CD miniを含む）、LD、MDの順になっており、日本盤は各項目ごと発売順に並んでいる。
- 原則として初出のアルバムごとの配列にし、その中で最も早い録音日をもって記してある。
- アルバムごとのなかでは、①②③の曲番号を便宜上つけて各々のデータをわけた。また、オムニバス盤ではレコード番号のあとに曲番号を記したが、必ずしも収録順を示しているわけではない。
- 外国盤のLDの再生方式（PAL/NTSC等）は、ディスク番号のあとに記した。
- 全曲盤よりの抜粋・編集ものは「（ハイライト）」・「（部分）」としてまとめたが、各々のLPやCDで収録範囲は同じではない。
- 主な略記号は本誌巻末「新譜CD&LD一覧表」のものを使用している。

CD : CDM 769 244-2, CMS 764 563
-2



▲1C 065 02 948 Q (シベリウス:交響曲第5番, 交響詩「伝説」)

- シベリウス/①交響詩「フィンランディア」作品26②「伝説」(エン・サガ)作品9③「タピオラ」作品112④「トゥオネラの白鳥」作品22

■ゲルハルト・シュテンブク (ehr/④), ベルリンpo.

▶1976年9月(①~④), 12月28~29日(④) ベルリン, フィルハーモニーザール

P ミシェル・グロツ
E ヴォルフガング・ギュリヒ

M02 878 Q

国LP : EAC 80377, EAC 47226-7, EAC 81005

CD : CC28 3804

②

LP : EAC 80384, EAC 90315

CD : CE25 5653

③

LP : EAC 80439

CD : CE25 5660

④

CD : CE25 5661

外LP : 1C 065 02 878 Q, S 37408 Q, ASD 3374, 2C 069 02 878 Q

CD : CDM 769 017-2, CDM 764 331 -2

②

LP : ASD 3409, 1C 065 02 948 Q, S 37490, EL 270 407-1

③

LP : ASD 3485, 1C 065 02 978 Q, S 37462 Q



▲S 37408 (シベリウス:管弦楽曲集)

- シベリウス/交響曲第4番短調作品63

■ベルリンpo.

▶1976年12月27日, 29日ベルリン, フィルハーモニーザール

P ミシェル・グロツ

E ヴォルフガング・ギュリヒ

※ウィーン・フィル創立150年記念のザルツブルク音楽祭ライブ盤。



▲435 326-2 (ブルックナー:交響曲第9番)

- ブラームス/①ドイツ・レクイエム作品45②ハイドンの主題による変奏曲作品56a

■アンナ・トモワ=シントウ (S/①), ジョゼ・ヴァン・ダム (Bs/①), ウィーン楽友協会cho. (①), ヘルムート・フロシャウアー (合唱指揮/①), デヴィット・ベル (Org/①), ベルリンpo.

▶1976年9月26日, 28日, 30日, 10月17~18日, ベルリン, フィルハーモニーザール

P ミシェル・グロツ

E ヴォルフガング・ギュリヒ

M02 850-1 Q

国LP : EAC 77179-80

①

CD : CE28 5192

②

CD : TOCE 5984-7

外LP : 1C 157 02 850-1 Q, SLS 996, SB 3838, CFP 41 4422-3, 2C 1 67 02 850-1

①

LP : SBLX 3838

CD : CDM 769 229-2

②

CD : CDS 763 321-2



▲1C 157 02 850-1 (ブラームス:ドイツ・レクイエム, ハイドンの主題による変奏曲)

- シベリウス/交響曲第5番変ホ長調作品82

■ベルリンpo.

▶1976年9月, 10月ベルリン, フィルハーモニーザール

P ミシェル・グロツ

E ヴォルフガング・ギュリヒ

M02 948 Q

国LP : EAC 80384, EAC 47226-7

CD : CE28 5186

外LP : 1C 065 02 948 Q, S 37490 Q, ASD 3409, EG 29 0613-1

- ブラームス/ヴァイオリン協奏曲二長調作品77

■ギドン・クレーメル (vn), ベルリンpo.

▶1976年3月6~7日ベルリン, フィルハーモニーザール

P ミシェル・グロツ

E ヴォルフガング・ギュリヒ

M02 781 Q

国LP : EAC 80305

CD : TOCE 7062

外LP : 1C 063 02 781 Q, 1C 065 02

781 Q, S 37226 Q, ASD 3261,

EG 29 0293-1, 2C 069 02 781,

C10 5765, C10 8553



▲EG 29 0293-1 (ブラームス:ヴァイオリン協奏曲)

- チャイコフスキー/交響曲第6番短調作品74「悲愴」

■ベルリンpo.

▶1976年5月5日, 7日ベルリン, フィルハーモニーザール

P ハンス・ヒルシュ/マクダレーネ・バトベルク

D ミシェル・グロツ

E ギュンター・ヘルマン

M2530 774

国LP : MG 1063, MG 8376-81, 30MG 0 615-6

CD : F00G 20267-70, F00G 27025, P

OCG 2261-4, POCG 9341-9

外LP : 2530 774, 2720 104, 2720 112, 2740 219, 2740 261, 2543 049,

415 468-1, 419 486-1

CD : 419 486-2, 423 504-2, 426 504-

2, 429 675-2, 429 677-2



▲2530 774 (チャイコフスキー:交響曲第6番「悲愴」)

- ブルックナー/交響曲第9番短調

■ウィーンpo.

▶1976年7月25日ザルツブルク, 祝祭大劇場

国CD : POCG 2625, POCG 9151-64

外LP : 435 983-1, 435 977-1 (韓国)

CD : 435 326-2, 435 321-2 (セット番号)

02 953 Q
 CD : CDM 769 007-2, CDM 764 357
 -2, CMS 764 563-2
 ③
 CD : CDM 763 527-2, CDC 749 895
 -2, CDM 764 358-2



▲MFSL 1-513(ドビュッシー:交響詩「海」, 牧神の午後への前奏曲, ラヴェル:ボレロ)

◎R.シュトラウス/楽劇「サロメ」作品54
 ■ヒルデガルト・ペーレンス (S: サロメ), カール・ワルター・ベーム (T: ヘロデ), アグネス・バルツァ (A: ヘロディアス), ヴィエスラフ・オフマン (T: ナラポート), ジョゼ・ヴァン・ダム (Bs: ヨカナン), ヘンリッヒ・アンゲルボ (A: ヘロディアスの小姓), ハイッツ・ツェドニク (T: 第1のユダヤ人), デヴィッド・ナットソン (T: 第2のユダヤ人), マルティン・ヴァンティン (T: 第3のユダヤ人), ゲルハルト・ウンガー (T: 第4のユダヤ人), エーリヒ・クンツ (T: 第5のユダヤ人), ジュール・バスタン (T: 第1のナザレ人), ディーター・エレンベック (Bs: 第2のナザレ人), ゲルト・ニンシュテット (Bs: 第1の兵士), クルト・リドル (Bs: 第2の兵士), ヘルゲ・フォン・ベムケス (Bs: カパドキア人), ホルスト・ニッテ (T: 奴隷), ウィーンpo.

▶1977年5月9~11日, 13日, 16~18日, 20日, 1978年5月2日ウィーン, ソフィエンザール

P ミシェル・グロツ
 E ジェームズ・ロック/アーサー・リリ

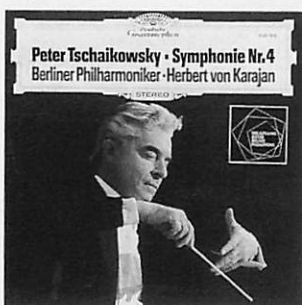
M02 908-9

国 LP : EAC 77206-7
 CD : CE30 5025-6, TOCE 6442-3
 外 LP : 1C 165 02 908-9, 2C 167 02
 908-9, SLS 5139, EX 749358-1,
 SBLX 3848
 CD : CDC 749 358-2



▲1C 165 02 908-9(R.シュトラウス:楽劇「サロメ」)

CD : 419 872-2, 423 504-2, 426 504-2,
 429 675-2, 429 677-2



▲2530 883(チャイコフスキー:交響曲第4番)

◎①ドヴォルザーク/交響曲第9番木短調作品95「新世界より」②スメタナ/交響詩「モルダウ」

■ベルリンpo.

▶1977年1月2~3日ベルリン, フィルハーモニーザール

P ミシェル・グロツ

E ヴォルフガング・ギューリヒ

M02 290 Q

国 LP : EAC 80354, EAC 47224-5, EAC 81002, EAC 47293-5, EAC 99002

CD : CC28 99002, CC28 3819, CE20 5413-4

①

LP : EAC 47141-2

CD : CE25 5651, CE25 5993

②

CD : TOCE 7207

外 LP : 1C 065 02 920 Q, ASD 3407, S 37437, 2C 069 02 920 Q

CD : CDM 769 005-2, CMS 764 563-2

①

LP : EG 29 1070-1

CD : CDM 253 652-2, CDM 764 325-2



▲EG 29 1070-1(ドヴォルザーク:交響曲第9番「新世界より」他)

◎①ドビュッシー/交響詩「海」②牧神の午後への前奏曲③ラヴェル/ボレロ

■ベルリンpo.

▶1977年1月5~7日ベルリン, フィルハーモニーザール

P ミシェル・グロツ

E ヴォルフガング・ギューリヒ

M02 953 Q

国 LP : EAC 80400, EAC 47232-3, EAC 99007

CD : CC28 99007, CC28 3822

外 LP : 1C 065 02 953 Q, 1C 137 54 3 60-3, ASD 3431, S 37455, EG 2 9 0856-1, MFSL 1-513, 2C 069

M02 978 Q

国 LP : EAC 80439, EAC 47226-7

CD : CE28 5186

外 LP : 1C 065 02 978 Q, S 37462 Q, ASD 3485, EG 29 0613-1

CD : CDM 769 244-2



▲S 37462(シベリウス:交響曲第4番, 交響詩「クビオラ」)

◎ブルックナー/交響曲第5番変ロ長調(原典版)

■ベルリンpo.

▶1976年12月6~11日ベルリン, フィルハーモニーザール

P ハンス・ヒルシュ/マクダレーネ・バトベルク

D ミシェル・グロツ/コード・ガーベン

E ギュンター・ヘルマンズ

M2810 063-4

国 LP : MG 8313-4, 00MG 0401-11

CD : F66G 50397-8, POCG 2033-41

外 LP : 2707 101, 2740 264

CD : 415 985-2, 429 648-2, 429 677-2

※ジャケット写真(2815 006)はザルツブルク・イースター音楽祭後援者への配付盤である。本ディスクグラフィでは特別な限定盤は除いてある。



▲2815 006(ブルックナー:交響曲第5番)

◎チャイコフスキー/交響曲第4番へ短調作品36

■ベルリンpo.

▶1976年12月9~10日ベルリン, フィルハーモニーザール

P ハンス・ヒルシュ/マクダレーネ・バトベルク

D ミシェル・グロツ

E ギュンター・ヘルマンズ

M2530 883

国 LP : MG 1087, MG 8376-81

CD : F28G 22056, F00G 20267-70, F00G 27085, POCG 2261-4, PO CG 9341-9

外 LP : 2530 883, 2720 104, 2740 219, 2740 246, 419 872-1

◎名演奏家

ディスコグラフィ◎

Herbert von Karajan

ヘルベルト・フォン・カラヤン

指揮者
オーストリア

1908.4.5～1989.7.16

第3期

◎第31回◎

財団の結実

連載「指揮棒の魔術師」第九章：財団設立者③

ハンス・ヤーコプ・クレーバー著 高橋みき訳・注釈

カラヤンは、意のままにできないことはなにひとつ行なおうとしなかった。そのため彼は同僚たちの多くとは異なり、作曲をすることはなかった。例えばフルトヴェングラーのように。フルトヴェングラーは、その生前の言葉によれば、指揮することはまさに作曲を可能にするための副次活動であるとみなしていたのである。彼は指揮者としての卓越した才能

を発揮する前、その青春時代にはそもそも作曲家としてキャリアを開始したのであった。

カラヤンは八三年のZDF（西ドイツ国営第二テレビ放送）のインタヴューで、作曲しない理由についてフリードリヒ・W・ミュラーにとびきり快活に語っている。「私はウィーン時代（著者注：ウィーン音楽アカデミーに学んでいた時期）、フランツ・シュミット（注1）の作曲のクラスにいました。指揮のコースでは『作曲』の授業は必修だったのです。そこにはありとあらゆる才能の持ち主たちがひしめいていました。そのなかのひとり、もうひとりに『何を作ったんだい？』と聞くと、『いましがた歌劇を完成させたばかりだ』と答え、隣の者が『僕はピアノ協奏曲さ』と続けるといった具合でした。そして『カラヤン君は何を作ったんだい？』と聞かれると、『御存知のようにまだ思案中で、出来上がってないんだ』と答えるのは有名な話でした。この話には続きがあります。私は最後にはこっけいな役まわりをふりあてられていましたから、一度そうはさせじと自分に言い聞かせ、ハインリヒ・ハイネの詩集を手に入れて目隠して開いて、いちばんわかりやすく短い詩を見つけ出して曲をつけたのです。そして次の『何か作ったかい？』の

質問のとき、みんな私が『いや、まだ：』と答えると思っていたのですから、『ああ作ったよ』と言うとみんな驚いて目を見ました。そしてそのあとみんながかならずのむなか、私の歌曲は演奏されました。——そのとき、私が尊敬してやまないシュミット先生が椅子から立ち上がり、言ったのです。『君の才能はオペレッタ向き以上ではあるようだ。わかっているかい。全員がどっと笑いました。その後先生が私に例の質問をするたびに、私は言ったものです。先生の厳しい評価にショックを受けたので、とうとう本当に何も思い浮かばなくなってしまうしました。そこでは確かに、私は作曲する仲間たちより劣っていました。——だが私はできないことをする必要はないはず！創作を願う気持ちは決して起こりませんでした。抑えているのはありません——私はやりたくないのです！』ついでに言うと、カラヤンがそれでも作曲しようとしていたなら、『私はシオスタコーヴィチのような曲を作っただろうと思います』と、一度もあらなかったことがあった。

カラヤンの財団は音楽・音楽の再生・音楽の受容、これら三者の関わりを生物（人間が中心ではあるが動植物も含まれている）を使って探究しようというものが、七九年にザルツブルクからウィーンへ移転された。ウィーン大学の付属機関となったのである。もちろん科学者たちのシンポジウムはザルツブルク・ウィーン音楽祭に引き続いて開かれた。カラヤンは常に、最も好奇心旺盛な受講者であり活発な討論者であった。そのテーマ——ほとんどは後から刊行された——の主要なものは次のとおりである。『音楽的世界の構想——啓蒙的パースペクティ



シオスタコーヴィチとカラヤン（'69年のモスクワ公演で交響曲第10番の演奏後に）



コンパクト・ディスクの合同発表会('81年4月15日ザルツブルク)

「ベルリンガー、七〇年」、「音楽的才能の心理学的諸問題」(ポロツク、七一年博士論文)、「音楽と睡眠——音楽体験の解明のためのひとつの試論」(クリューズル、七二年、博士論文)、「音楽と植物神経系」(ハラ、ベルディンガー、レヴァース、ジーマン、七三年)、「音楽療法の新しい道」(ハラ、レヴァース、ジーマン、七三年、エーコン社)、「音楽——知性——ファンタジー」(レヴァース、ラウエ、七九年)(注2)。

ヘルベルト・フォン・カラヤンは数々の賞を授与したのみではない——彼自身もまた受賞している。七七年四月にはミューンヘンで「エルンスト・フォン・ジーマン音楽賞」を受賞し、十萬スイス・フランを得ている。これは音楽界のノーベル賞に相当し、カラヤンは喜びで顔を輝かせて「私の最初の賞だ」と語った。彼はその賞金をベルリンとザルツブルクの自分の財団に提供した。この表彰の精神的価値を減じようというのではないが、レコード業界(特にドイツ・グラモフォン)はジーマン(注3)と緊密な結び付きがあり、かつカラヤンの録音商品は非常に利潤をもたらしたし今後もたらし続けるであろうということが、言われている。

カラヤンの二度目の受賞は八四年十二月十二日、ベルリンでのエードゥアルト・ライン・グループからのものであった。十萬マルクの賞金が贈られたが、カラヤンが創立したベルリン・フィルのためのカラヤン・アカデミーに、それはあてられることになった。

八十四歳になるグループ創立者エードゥアルト・ライン(注4)は、自らの手で授与を行なった。カラヤンは、「ZDFにおけるテレビのステレオ放送の達成」に際して起用されたこと、「デジタル音響技術の導入のために終始一貫して参加」したことが、受賞の対象になった。

授与する際にラインは思ったものだ。非常に才能豊かな指揮者が、技術者たちに委ねられた電気機械装置の技術的な個々の部分のために心を砕き、無資格であるというのに要求すらも出し、しかもとうとうそれを貫徹させてしまったということなどは、「全く稀有なことであり、多くの技術者たちは『例外である』とすら言っている」。だが、かかることをヘルベルト・フォン・カラヤンはやってのけたのだ。以上はドイツ・プレス・エージェンシーによる要約である。

このライン・グループがカラヤンに対して持った意味を正しく評価するため、その創立者についていまいし知ってもらう必要がある。三〇年代に二冊の革命的な青少年向けの書籍が出版された。「波動の不思議」と「君たちと電気」である。エンジニアであり物理学者であり編集者でもあったエードゥアルト・ラインがその著者であった。この二冊はたぐいまれなやり方で、子供たちと専門知識のない大人たちとを楽々と理解させ、ボルトとヘルツとワットの世界へと案内して行った。両著はミリオンセラーとなって各国語に

訳され、点訳すらなされたほどであった。両著は当時の最も若い世代を興奮させ、後には無線とテレビジョンとレコードの嵐のような発展を、あらゆる成果を生み出しつつ促進してゆく基盤であったと言えるだろう。

さらに革命的だったのは、五〇年代初めにラインにより発明された、レコードの縦振動の音溝のピッチをうんと狭くして詰め込むという方式であった。彼は十年間にわたりこの完成のために労してきた。それは最初の長時間レコードとして結実した。それまでは片面の時間がせいぜい四〜五分だったのが、ラインによるこの方式のおかげで片面で二十五分間にも伸びたのである。加えて再生音のクオリティも著しく改善された。

今日、放送においては、超短波送信は自明のことである。その開設と拡充のため、エードゥアルト・ラインは彼にとって可能なあらゆる手段を使って尽力した。そしてなによりも、戦後ドイツ最大の放送誌「ヘア・ツ」の創刊者であり、六六年までその編集長を務めたのだ。ラインは高齢になっても倦むことなく、テクノロジーの数々の夢の実現のために全身全霊をあげて打ち込んだ。彼の夢とはテレビの平らな画面であり、テレビのハイファイ・ステレオ放送であり、千二百本の走査線による高画質テレビ(これは日本においては実験段階ながらすでにHDTVとして完成を見ている)であった。多面性と根気強さというふたつの特性により、このライン河畔出身の男とザルツァッハ川のほとりに生まれた男とは、



固い絆で結ばれていた。カラヤンがエドワード・ライオンに抱いていた感謝の気持ちを理解しようと思うなら、彼が八一年四月十五日にザルツブルク・イースター音楽祭のまつたなかでついた、回想の深い深いため息に耳を傾けねばならない。——その日は、ポリグラム、ソニー、フィリップス、ドイツ・グラモフォンといった、世界に市場を持った企業の合同の発表会が開かれたのであり、その晴れ舞台で七十三歳のカラヤンは、彼が総力をあげてきたあの「コンパクト・ディスク」を興奮して紹介したのであった。

(つづく)

〔注釈〕

(1) 一八七四年ブラティスラヴァ生まれ。オーストリアのチェロ奏者、教育者、作曲家。一九〇一年からウィーン音楽院でチェロ、作曲等を教え、二五〇二七年院長。その後ウィーン音楽アカデミーでも教え、校長となる。ヴィクトル・ユーゴーの作品を基にした歌劇《ノートル・ダム》(一九〇四年完成)が有名。カラヤンはこの歌劇の間奏曲を大変好んで、「オペラ間奏曲集」では必ずレコーディングに加えて敷衍させた(①フィリッパ・モニア管弦楽団、②ベルリン・フィル、③ベルリン・フィル、④DG、⑤EMI)。一九三九年死去。

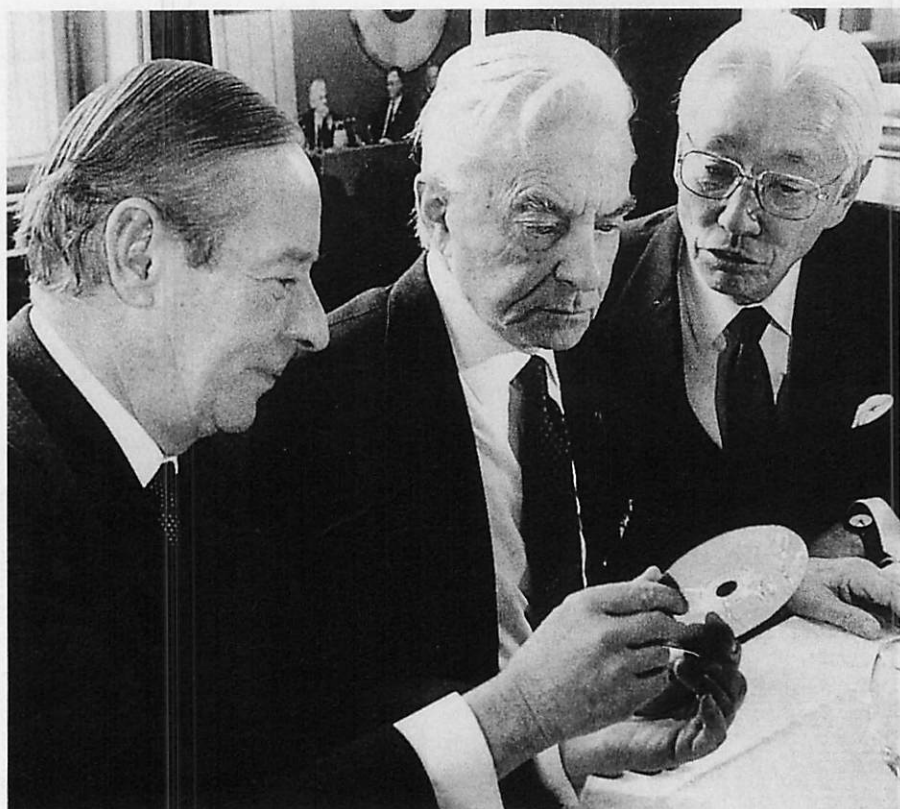
(2) これら研究論文のうちの第一部は、八八年にベルリンとハイデルベルクのシュプリング・ガールからカラヤン八十歳の誕生日を記念して出版された、ゲッツェ&ジモン編『Wo Sprache aufhört……』に抄録されている。邦訳は『』との止むところ……』(シュプリング・ガール・フェアラーク東京、水上尚子訳、九一年、抄訳)。

(3) 一八四七年、E・W・ジーメンスが電

信製造所を創設したことに始まる。第一次大戦後世界有数の一大コンツェルンとなり、アメリカのゼネラル・エレクトリック社とも提携して国際的な独占体制を形成した。第二次大戦後は西ドイツの経済復興と共に発展を続け、ヨーロッパ全体ではフィリップス社に次いで第二の、西ドイツでは最大の総合電機メーカーとなる。

(4) 一九〇〇年、ライン河畔のケーニヒス

ウィンターに生まれる。その名前はライン川に由来している。本文中で紹介されている業績以外にも、いくつかのペンネームで十いくつものベストセラー小説を執筆し、そのうちの七つまでが映画化されている。また、友人である作曲家エドワード・キュネッケ(一八八五—一九五三)のオペレッタ『夢の国』の台本も執筆した。



コンパクト・ディスクの推進者——ザルツブルク州首相ヴィルフリート・ハースラヴァー、カラヤンとソニー会長盛田昭夫氏(’86年3月26日ザルツブルク)

ヘルベルト・フォン・カラヤン=ディスコグラフィ

●ディスコグラフィ制作……………佐々木 豊〔資料提供:D.C.ランボン(英)、鈴木恭司、金井清〕

〔ディスコグラフィ記載方法〕

- 順序は演奏者、収録年月日、収録会場、プロデューサー(P)、ディレクター(D)、レコーディング・エンジニア(E)、マトリックス番号(M)、日本盤・外国盤のレコード番号、特記事項になっている。曲目の前の[V]は映像作品を示す。
- 収録年月日は録音に要した日付であり、実際に使われていないディスクも含んでいる。
- レコード番号はLP(10インチを含む)、CD(CD miniを含む)、LD、MDの順になっており、日本盤は各項目ごと発売順に並んでいる。
- 原則として初出のアルバムごとの配列にし、その中で最も早い録音日をもって配してある。
- アルバムの中なかでは、①②③の曲番号を便宜上つけて各々のデータをわけた。また、オムニバス盤ではレコード番号のあとに曲番号を記したが、必ずしも収録順を示してはいない。
- 外国盤のLDの再生方式(PAL/NTSC等)は、ディスク番号のあとに記した。
- 全曲盤よりの抜粋・編集ものは「ハイライト」・「部分」としてまとめたが、各々のLPやCDで収録範囲は同じではない。
- 主な略記号は本誌巻末「新譜CD&LD一覧表」のものを使用している。



- ①
LP: 2531 284
CD: 419 176-2, 431 601-2, 431 606-2
- ②
LP: 2531 285
CD: 419 177-2
- ③
LP: 2531 286
CD: 419 178-2, 431 601-2, 431 605-2



▲2709 101(チャイコフスキー:交響曲第1-3番)

◎ベートーヴェン/交響曲第9番二短調作品125「合唱」

■アンナ・トモワ=シントウ(S), アグネス・バルツァ(A), ルネ・コロ(T), ジョゼ・ヴァン・ダム(Bs), ベルリン・ドイツ・オペラcho., ワルター・ハーゲン=グロル(合唱指揮), ベルリンpo.

▶1977年12月31日ベルリン, フィルハーモニーザール

芸術総監督: ヘルベルト・フォン・カラヤン

演出: ハンフリー・バートン

テクニカル・スーパーヴァイザー: ヴィルヘルム・ヴィルムス

ビデオE: ジョークフリート・ハーマン

音響E: ゲルノート・R・ヴェストホイザ

撮影: セップ・ユルゲン・ブラウネ/アレクサンダー・ゴールデン/ジェン・コツトナー/マンフレッド・シープスター/ユルゲンシュミット・ヤコビ/マニエル・シュター

映像編集: イングボルク・マルクス

助監督: クリスタ・グレンフェ

音響D: クラウス・ブレール

エグゼクティブE: ホーランド・H・ホルフェルト

国[VHD] VHM 68020

[LD] POLG 1007-10, W48Z 24051

※[LD] 072 133-1(PAL), 072 233-1(NTSC)

◎シューベルト/交響曲全集 (①交響曲第1番二長調D.82②第2番変ロ長調D.125③第3番二長調D.200④第4番八短調D.417「悲劇的」⑤第5番変ロ長調D.485⑥第6番八長調D.589⑦序曲「魔法のたてま」D.644⑧劇音楽「ロザムンデ」バレエ音楽第1番⑨第2番⑩交響曲第9番八長調D.944「ザ・グレート」)

■ベルリンpo.

▶1978年1月ベルリン, フィルハーモニーザール

P: ミシェル・グロツツ

E: ヴォルフガング・ギュリヒ

M03 285-9 Q

国LP: EAC 77275-9

①
CD: CE22 5451-4

CD: 429 644-2, 429 677-2, 431 593-2, 437 645-2

④
LP: 2531 133, 2543 043, 2741 023, 2720 112, 2543 042

CD: 423 205-2, 423 555-2, 445 009-2

⑤
LP: 2531 134, 2543 043

CD: 429 644-2, 429 677-2, 431 593-2, 437 645-2

◎レスピーギ/①交響詩「ローマの噴水」②「ローマの松」

■ベルリンpo.

▶1977年12月5~6日, 1978年1月26日, 2月13日, 26日ベルリン, フィルハーモニーザール

P: ハンス・ヒルシュ/マクダレーネ・バトベルク

D: ミシェル・グロツツ(①)/コード・ガーベン(②)

E: ギュンター・ヘルマン

M2531 055

国LP: MG 1157

CD: 3111 28, POCG 2284

※LP: 2531 055

CD: 413 822-2



▲2531 055(レスピーギ:交響詩「ローマの噴水」&「ローマの松」)

◎チャイコフスキー/①交響曲第1番ト短調作品13「冬の日の幻想」②第2番八短調作品17「小ロシア」③第3番二長調作品29「ポーランド」

■ベルリンpo.

▶1977年12月9~10日(①), 12日(③), 1978年2月17日(③), 1979年1月25日(②), 26日(①/②), 29日(①~③), 2月20日(①/③), 21日(③), 29日(②)

ベルリン, フィルハーモニーザール

P: ハンス・ヒルシュ

D: コード・ガーベン/ミシェル・グロツツ(②)

E: ギュンター・ヘルマン

M2562 127-9

国LP: MG 8376-81

CD: F00G 20267-70, POCG 2261-4, POCG 9341-9

①
LP: 28MG 0139

CD: F35G 50382, POCG 1351

②
LP: 28MG 0140

CD: F35G, 50383, POCG 1352

③
LP: 28MG 0141

CD: F35G 50384, POCG 1353

※LP: 2709 101, 2740 219, 2740 246, 2720 104, 2531 284, 415 024-1, 419 815-1

CD: 426 504-2, 429 675-2, 429 677-2, 423 504-2

◎ヴェルディ/歌劇「トロヴァトーレ」

■ビエロ・カブッチリ(Br: ルーナ伯爵), レオンティン・ブライス(S: レオノラ), エレナ・オブラストワ(Ms: アズチーナ), フランコ・ボニゾリ(T: マンリーコ), ルッジェーロ・ライモンディ(Bs: フェランド), マリア・ヴェヌーティ(S: イネス), ホルスト・ニッチェ(T: ルイス/使者), マーティン・イーゲル(Bs: 年寄りのジブシー), ベルリン・ドイツ・オペラcho., ワルター・ハーゲン=グロル(合唱指揮), ベルリンpo.

▶1977年9月20~22日, 26~27日ベルリン, フィルハーモニーザール

P: ミシェル・グロツツ

E: ヴォルフガング・ギュリヒ

M02 981-3Q

国LP: EAC 77242-4

CD: CE30 5206-7, TOCE 6440-1

※LP: 1C 165 02 981-3 Q, SLS 5111, EX 29 0953-3, 2C 167 02 981-3 Q, 1116 3281-3, 33C10 11315-20

CD: CDS 769 311-2

[ハイライト]
LP: 1C 061 03 995 Q, 2C 061 03 995 Q

[部分]
CD: CDM 769 338-2, CDM 769 549-2, CZS 252 159-2

◎ブラームス/①交響曲第1番八短調作品68②第2番二長調作品73③第3番八短調作品90④悲劇的序曲作品81⑤交響曲第4番八短調作品98

■ベルリンpo.

▶1977年10月18日(③), 19日(②/⑤), 20日(①/⑤), 22日(④), 12月7日(③/⑤), 1978年1月21日(③), 23日(⑤), 24日(①/②), 25~27日(①), 2月16日(②), 19日(①/②)ベルリン, フィルハーモニーザール

P: ハンス・ヒルシュ/マクダレーネ・バトベルク

D: ミシェル・グロツツ/コード・ガーベン

E: ギュンター・ヘルマン

M2563 965-8

国LP: MG 8341-4

①
LP: MG 1184, 00MG 0505

CD: POCG 2022-4

②
LP: MG 1185, 00MG 0506

CD: POCG 2022-4

③
LP: MG 1186, 00MG 0507

CD: POCG 2022-4, POCG 9370-9

④
LP: MG 1186, 00MG 0506

CD: F26G 29032, POCG 2275

⑤
LP: MG 1187, 00MG 0508

CD: POCG 2022-4, POCG 9370-9

※LP: 2711 022, 2740 193, 2740 275

①
LP: 2531 131, 2543 042, 2740 261

CD: 429 644-2, 429 677-2, 427 253-2

②
LP: 2531 132

CD: 429 644-2, 429 677-2, 431 067-2, 435 067-2

③
LP: 2531 133



▲LD 072 238-1 (ドビュッシー：交響詩「海」の午後への前奏曲、ラヴェル：バレエ「ダフニスとクロエ」第2組曲)

●V●ブラームス／ドイツ・レクイエム 作品45

■グンドラ・ヤノヴィッツ(S), ホセ・ファン・ダム(Bs), ウィーン楽友協会cho., ヘルムート・フロシャウアー(合唱指揮), ベルリンpo.

▶1978年3月22日ザルツブルク, 祝祭大劇場

芸術総監督：ヘルベルト・フォン・カラヤン

撮影：フェリックス・クレンクル／ベーター・ガヴァック／ヴァルター・ヘンツォル／ハンス・ヴィクトール・ケブラー／ヴァルター・ツァーク／クラウド・デ・ツヴァーン

映像編集：クルト・ツェラー

映像監督：エルンスト・トッター

音響Eエドウィン・ハウザー

音響Pミロラフ・スヴォボダ

ビデオEエヴァ・サルトリウス

助監督：クリスタ・グレーフェ

プロダクション・マネージャー：ハインリヒ・エイグナー

エグゼクティブPホルランド・H・ホルフェルト

LD POLG 1002

LD 072 135-1(PAL), 072 235-1(NTSC)

※ユニテル・ORF・ZDFの共同制作によるライブ収録。



▲LD POLG 1002 (ブラームス：ドイツ・レクイエム)

▶1978年2月13～19日ベルリン, フィルハーモニーザール

Pハンス・ヒルシュ／マクダレーネ・バトベルク

Dコード・ガーベ

Eギュンター・ヘルマン

M2531 049

L P : MG 1160, 18MG 4526

C D : F35G 50297, POCG 1345

② C D : F26G 29025

外 L P : 2531 049, 827 621, 2740 282, 41

0 982-1, 419 806-1

C D : 415 327-2, 415 565-2, 429 800-

2, 429 814-2

① L P : 415 565-1

② L P : 2720 111, 2543 024

C D : 423 211-2, 423 555-2, 429 371-

2



▲2531 049 (モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲第3&5番「トルコ風」)

V●①ドビュッシー／交響詩「海」②牧神の午後への前奏曲③ラヴェル／バレエ「ダフニスとクロエ」第2組曲

■カール＝ハインツ・ツェラー(fl/②/③), ベルリンpo.

▶1978年2月ベルリン, フィルハーモニーザール

芸術総監督：ヘルベルト・フォン・カラヤン

映像監督：エルンスト・ヴィルト

映像編集：ゲラ＝マリナ・ルンネ

撮影：クルト・ブリュックナー／アクセル・デ・ロッシュ／エルンスト・シュトリツィンガー

音響Eヴォルフガング・ギュリヒ／ヘルムート・シャルケ／ゲルノート・R

・ヴェストホイザー

エグゼクティブPホルランド・H・ホルフェルト

LD W00Z 24053

LD 072 138-1(PAL), 072 238-1(NTSC)

② C D : CE22 5451-4

③ C D : CE22 5451-4

④ C D : CE22 5451-4

⑤ L P : EAC 80544, EAC 55053

C D : CC28 3805, CE22 5451-4

⑥ C D : CE22 5451-4

⑦ L P : EAC 80544

⑧ L P : EAC 80544

⑨ L P : EAC 80544

⑩ L P : EAC 80543

C D : CE25 5609, TOCE 7007

外 L P : 1C 157 03 285-9 Q, 2C 165 03

285-9 Q, SLS 5127, SE 3862

① C D : CDM 769 884-2

② C D : CDM 769 884-2

③ L P : 1C 065 03 814 Q, ASD 3860,

SZ 37754

C D : CDM 769 884-2

④ C D : CDM 769 884-2

⑤ L P : EX 29 0572-1, 1C 065 03 814

Q, SZ 37754

C D : CDM 769 016-2, CDM 769 884

-2

⑥ C D : CDM 769 884-2

⑦ L P : SXLP 30506, S 37058, EX 29 0

572-1

C D : CDM 769 016-2

⑧ L P : 1C 065 03 288 Q

C D : CDM 763 529-2

⑨ L P : 1C 065 03 288 Q

C D : CDM 763 529-2

⑩ L P : 1C 065 03 289 Q, EX 29 0612-

1, 2C 069 03 289 Q

C D : CDM 763 529-2, CDM 764 628

-2, CDM 769 884-2

※1975年1月録音の第8番「未完成」を加えて「交響曲全集」が初出である。



▲1C 065 03 814Q (シューベルト：交響曲第3&5番)

●モーツァルト／①ヴァイオリン協奏曲第3番ト長調K.216②第5番イ長調K.219「トルコ風」

■アンネ＝ゾフィー・ムター(vn), ベルリンpo.



〈ドイツ・レクイエム〉収録風景(1978年3月22日, ザルツブルク祝祭大劇場)

◎名演奏家

ディスクグラフィ◎

Herbert von Karajan

ヘルベルト・フォン・カラヤン



連載「指揮棒の魔術師」第九章：財団設立者④

ハンスヤーコフ・クレバー著 高橋みき訳

CD時代の到来

一九八一年四月十五日の朝、カラヤンは一九四九年当時を思い出していた。「當時を回想するたび、あれはまさに一種の拷問だったなと思います。想像してみ下さい。あのころは蠟盤に録音していたのです。一枚の蠟盤は三分半しかもちませんでした。録音し終わる直前にまちがいが起こると、例えばオーボエ奏者は見事に吹けた独奏部分をもう一度繰り返さなければなりませんでした。そして二回

目では、よくあることですが自然に彼はコンプレックスを抱いてしまい、そうなるとうまくいかなくなってしまうのです。そんなわけで、私たちは七回も八回も同じところをやり直さなければならなかったのです……」。

後に、磁気テープを使って録音できるようになり、長時間レコードの時代が到来した。それはほとんど改良されていた。ハイファイによるステレオ録音が、次いでカラーテレビが出現した……。そしてカラヤンは常に、いくつもの計画と予測とによって他の誰よりもはるか先を進んでいたのである。

コロンビアのレコード・プロデューサー、イギリス人ウォルター・レグを思い出していただきたい。カラヤンは彼とともに、まだ指揮活動が禁止されていた四六年に録音活動を始めたのだ。これらのレコードは、自国では沈黙を強いられていた、だが音楽への野心を燃やたせていた指揮者ヘルベルト・フォン・カラヤンの名を、イギリスとアメリカにおいてまだその顔も知られないうちから有名にしたのである。

ここには、カラヤンが理解していた意味についての「万人のための音楽」という理念の萌芽が見られる。この時点でもう、彼はメディアのとりこになり始めたのだ。そのありさまは「敏速で、巨

費を投じつつ、そして非常に抜目ない」

ものだったと、パウル・ハーガー（ウィーンの演出家、カラヤンの側近）は表現した。彼は自分の体験から補足しつつ述べている。「カラヤンは私に、今日（八二年）ですらなお実現には遠く及ばないような時代の、だが彼はすでに「プロデューサー」していた時代の書写真について語ってくれた。例えば、アメリカ西部中央の中心地区はおよそ九〇年ごろにはその郷土文化の発信基地となるであろう、というようなことをだ。カラヤンはこう言った。「ハーガー、西部の中央では千kmごとに村があるが、われわれが今（六八年）ミラノで撮影している《道化師》を、その人々が観ている様子を想像してみたまえ。それこそは、大都市の影響を受けずに人々が達成する文化なんだ。そしてその《道化師》でわれわれふたりはもうけるんだ、二〇〇〇年が来たなら……」。ハーガーの述懐は、比較的印象主義的だ。

抜目なく——カラヤンは、レコードでいくらの利益をあげられるか、決して見失なうことがなかった。そのため彼は一度、その理想主義的な名言句とは極端に対立するようなレコード制作を思わず行なってしまったのだ。一例として、グノーが編曲したバッハの《アヴェ・マリア》とシューベルトの《アヴェ・マリア》

のオーケストラ版の感傷的な録音が指摘されている。両者ともサバティエーニがアレンジし、クリスマスの歌と一緒に「レオンタイン・プライスとのクリスマス」というアルバムで、ウィーン・フィルの演奏（六一年）で入れられたものだ。それよりはるかに、カラヤンが七二年にヨーロッパ会議のためにベルリン・フィルと吹き込んだ《ヨーロッパ讃歌》（カラヤン自身の編曲による）とヨーロッパ十七ヶ

国国歌集の、ある種の正当さを否認することはできない。ベートーヴェンの《ヨルク行進曲》からザイフェルトの《ケルテンのリーダー行進曲》とタイケの《旧友》を経てゾントークの《ニーベルンゲン行進曲》に至る、プロイセンとオーストリアの三〇曲のマーチの録音（ドイツ行進曲集、七三年）は少なくともひとつの例外的なアルバムとして、カラヤンのファンたちのコレクションに加えられたのである。

ヘルベルト・フォン・カラヤンは、そのキャリアにおいて九百タイトルを録音した。——そのなかには、四度にわたるベートーヴェンの《交響曲全集》の録音が含まれている。一回目はフィルハーモニア管弦楽団と、その後はずっとベルリン・フィルと新しい技術が開発されるたびに録音し、最後は八二年、コンパクトディスクに録音した。これは直径十二cm

の円板で、レーザー光線の走査で接触することなしに再生でき、したがって磨耗もなく、その音響は完璧に純粋であるというものである。

八二年六月十二日、最初に大量生産されたR・シュトラウスの《アルプス交響曲》の鏡のように光るCDを、ポリグラム(ドイツ・グラモフォン)から贈呈されたとき、カラヤンは喜びをほとんど隠すことができなかった。「ご覧下さい」。彼は眼を輝かせながら小さな円板を高く掲げ、それをためたりもしながら語った。「ご覧下さい、私たちはこれをヨットや車のなかでもかけることができるのです。丈夫で壊れず、音響は最高の水準に達しています！」

ところで八二年当時は、多くのメーカーがなおその新技術に対して懐疑的であった。要するに、録音方法が新しいというだけでなく、その製造法(塵を完全に遮断し無菌状態にした部屋でなければならぬ)と全く新しい(当初は必ずしも安くはなかった)再生装置の導入も、将来の見通しはうす暗がりの状態だったのである。八三年二月にある経営者の言葉が『ジュピター』誌に引用された。「もしもコンパクト・ディスクが不成功に終われば、何人もの経営者が死に追いやられる」。

だがカラヤンにとっては、CDは「テクノロジーの発展の里程標」だったのであり、今もそうあり続けている。

そしてここでも、マエストロはすでに二年後には、あらゆる懐疑に対し進歩を

目指して突進することで(私は絶対には戻らない)、その考えは間違っていない。五一年一月二十八日付の『ジュピター』誌を読み直すと、昨年は西ドイツだけで二四〇万枚のCDが売れ、全世界ではその売れ行きは千七百万枚に達した。今年には四千万枚のレーザー・ディスクの売り上げが見込まれている」という記事を見出すだろう。ドイツ・グラモフォンのクラシック音楽部部長カール・ヴィルヘルム・キュルテンは、満面に笑みを浮かべ全身で喜びをあらわしながら「こんなに急速な流行を、誰も予測できませんでした」と言った。

否、ひとりはず測していたに違いない。ヘルベルト・フォン・カラヤンである。その点マエストロは、新しいものならなんでも盲目的に受け取るような人間とは、全く異なっていた。この指揮者は八五年、七十七歳だったが夢中になってオ

ペラとコンサートで、テレビ画面にふさわしく調整された形でプロデュースしていた。しかし六三年当時はまるで反対の考えを持っていた。彼は、テレビの発明とは「興味深く未来を指し示す事件」であると考えていたが、最初の段階では根本的な誤解をしてしまった。「テレビは言うならば、巨大な音楽と矮小な光学」と、当時『ジュピター』誌のインタヴューで語っている。「合唱団が舞台に並ぶと、ひとりひとはテレビでは七、九mmの大きさでしか写らない。その反対に部屋の音響は、オーケストラの音響が歌劇場を満たす程度以上のものとなるだろう。つまり耳は音響で満たされるが、見えるのは小人だろう。それではまずい」。そのころは、カラヤンはオペラとコンサートのテレビを介した未来を、壁に写された巨大な映像のなかに模索していたのである。(つづく)



(アルプス交響曲)のCDを持つカラヤン(1982年6月12日、ハンブルク)

ヘルベルト・フォン・カラヤン=ディスコグラフィ

●ディスコグラフィ制作……………佐々木 豊 [資料提供: D.C.ランボン(英)、鈴木恭司、金井清]

[ディスコグラフィ記載方法]

- 順序は演奏者、収録年月日、収録会場、プロデューサー([P])、ディレクター([D])、レコーディング・エンジニア([E])、マトリックス番号([M])、日本盤・外国盤のレコード番号、特記事項になっている。曲目の前の[V]は映像作品を示す。
- 収録年月日は録音に要した日付であり、実際に使われていないディスクも含んでいる。
- レコード番号はLP(10インチを含む)、CD(CD miniを含む)、LD、MDの順になっており、日本盤は各項目ごと発売順に並んでいる。
- 原則として初出のアルバムごとの配列にし、その中で最も早い録音日をもって記してある。
- アルバムの中へは、①②③の曲番号を便宜上つけて各々のデータをわけた。また、オムニバス盤ではレコード番号のあとに曲番号を記したが、必ずしも収録順を示してはいない。
- 外国盤のLDの再生方式(PAL/NTSC等)は、ディスク番号のあとに記した。
- 全曲盤よりの抜粋・編集ものは「ハイライト」・【部分】としてまとめたが、各々のLPやCDで収録範囲は同じではない。
- 主な略記号は本誌巻末「新譜CD&LD一覧表」のものを使用している。

撮影：ペーター・ハース／ヨハン・ティ
 ッター／ペーター・ガヴァック／エル
 ンスト・メイヤー／ヴァルター・レク
 トリック／ガー・マイクスナー(①)
 音響：ヴォルフガング・ギューリヒ／ヘ
 ルムート・シャルケ
 音響：ミシェル・グロツツ
 映像編集：ゲラ＝マリナ・ルンネ
 ②ホルラント・H・ホールフェルト
 エグゼクティブ：フリッツ・ブッテンシ
 ュット
 ③L D POLG 1024
 ④L D 072 137-1(PAL), 072 237-2(NT
 SC)
 ※ユニテル・ORF・ZDFの共同制作によるラ
 イブ収録。



▲POLG 1024(ブルックナー：交響曲第9番&テ・デウム)

◎ヴェルディ／歌劇「ドン・カルロ」(4
 幕版)

■ホセ・カレーラス(T：ドン・カルロ
 ス), エディタ・グルベローヴァ(S：
 テバルド), ミレラ・フレニ(S：
 エリザベッタ), ホルスト・ニッチェ(T：
 レルマ伯爵), ジョゼ・ヴァン・ダム(Bs：
 修道士), ビエロ・カブッチリ
 (Br：ロドリゴ), アグネス・バルツ
 ア(Ms：エボリ姫), ニコライ・ギヤ
 ロフ(Bs：フィリッポ2世), ルッジェ
 ーロ・ライモンディ(Bs：宗教裁判所
 所長), カルロ・メレッティ(Br：使者),
 パーバ・ヘンドリックス(S：天の
 声), ロベルト・バヌエラス(6人の使
 節), ヨーゼフ・ベッカー(6人の使
 節), ウォルター・グロムルス(6人の使
 節), クラウス・ラング(6人の使節),
 マンフレッド・ロール(6人の使節),
 イヴァン・サルディ(6人の使節), ベ
 ルリン・ドイツ・オペラcho., ワルタ
 ー・ハーゲン＝グロル(合唱指揮), ベ
 ルリンpo.

▶1978年9月15～20日ベルリン, フィル
 ハーモニーザール

②ミシェル・グロツツ
 ③ヴォルフガング・ギューリヒ
 ④03 450-3S

⑤L P：EAC 77296-8
 C D：CE30 5198-200, TOCE 6437-9
 ⑥L P：1C 157 03 450-3S, 2C 167 03
 450-3, SLS 5154, SZDX 3875,
 EX 769304-1

C D：CDS 769 304-2
 [ハイライト]
 L P：1C 061 03 537, 2C 061 03 537
 C D：CDM 763 111-2, CDM 763 557
 -2, CDM 769 338-2

[部分]
 C D：CDM 769 549-2, CZS 252 159-
 2

◎ドビュッシー／歌劇「ペレアスとメリ
 ザンド」

②ノルベルト・ハウプトマン(hrn
 ②), アンドレアス・ブラウ(fl/③)
 ④), コラディン・グロート(tp/
 ③), ベルリンpo.

▶1978年7月1～3日, 1979年1月28～
 29日ベルリン, フィルハーモニーザ
 ール

②ハンス・ヒルシュ
 ③ミシェル・グロツツ
 ④ギュンター・ヘルマン

⑤2531 148-9
 ⑥L P：MG 8420-1
 C D：F66G 50334-5, POCG 2288-9

[①の第3楽章]
 C D：POCG 2018, POCG 2063

⑦L P：2707 112, 413 185-1
 C D：415 374-2

①
 L P：2531 333

②
 L P：2531 332

③
 L P：2531 332

④
 L P：2531 333

⑤
 L P：2531 332

⑥
 L P：2531 333



▲2707 112(J・S・バッハ／ブランデンブルク協奏曲全曲)

◎ヴェルディ／歌劇「トロヴァトーレ」

■ライナ・カヴァイアンスカ(S：レ
 オノーラ), プラシド・ドミンゴ(T：
 マンリーコ), ビエロ・カブッチリ
 (Br：ルーナ伯爵), フィオレンツァ・
 コッソット(Ms：アズチーナ), ジョ
 ゼ・ヴァン・ダム(Bs：フェランド), ハ
 イント・ツェドニク(T：ルイス), ウ
 ィーン国立歌劇場cho., ウィーン国立歌
 劇場o.

▶1978年5月1日ウィーン, 国立歌劇場
 [第4幕第1場]

⑦L P：Legendary Recordings LR 135
 ※ウィーン国立歌劇場復讐2年目のユーロ
 ヴィジョン中継された5月1日のライブ録音。
 映像は未発売である。

◎ブルックナー／①交響曲第9番二短
 調②テ・デウム

■アンナ・トモワ＝シントウ(S/②),
 アグネス・バルツァ(A/②), デイヴ
 イッド・レンドール(T/②), ジョゼ
 ヴァン・ダム(Bs/②), ウィーン楽友
 協会cho. (②), ヘルムート・フロシャ
 ウアー(合唱指揮/②), ウィーンpo.

▶1978年5月7～8日ウィーン, ムジ
 クフェラインザール

芸術監督：ヘルベルト・フォン・カラ
 ヤン
 映像監督：エルンスト・ヴィルト

◎モーツァルト／歌劇「フィガロの結婚」
 K.492

■ジョゼ・ヴァン・ダム(Br：フィガロ),
 イレアナ・コトルバス(S：スザンナ),
 ジュール・バスタン(Bs：バルトロ),
 ジャヌ・ベルビエ(Ms：マルチェリ
 ナ), フレデリカ・フォン・シュテ
 デ(Ms：ケルビーノ), トム・クラウゼ
 (Bs：アルマヴィーヴァ伯爵), アンナ
 ・トモワ＝シントウ(S：伯爵夫人),
 ハイント・ツェドニク(T：ドン・バ
 ジリオ), クルト・エクヴィルツ(T：
 ドン・クルチオ), ソルタン・ケレメン
 (Bs：アントニオ), クリスティアヌ
 ・バルボー(S：バルバリーナ), マル
 ヨン・ランブリクス(Ms：若い娘), ウ
 ィーン国立歌劇場cho., ノルベルト・
 バラツチュ(合唱指揮), コラート・
 ライトナー(cemb), ウィーンpo.

▶1978年4月17～24日, 26日, 29日, 5
 月1～4日ウィーン, ソフィエンザ
 ール

②クリストファー・レーバーン/リチャ
 ード・ベズウィック

③ジェイムズ・ロック/ジョン・ダン
 カーリー/ジャック・ロウ

④ZAL 16312-9

⑤L P：SLD 7001-4, L92C 1201-4
 C D：F90L 50557-9, POCL 2331-3

[序曲]

C D：POCL 2296

[ハイライト]

L P：L20C 1821

C D：F30L 20213, POCL 2701

[部分]

C D：POCL 2201, POCL 2203, POCL
 2204, POCL 2725, POCL 2300

⑥L P：D 132 D4, 6.35 430GK, 390 02
 6

C D：414 036-2, 421 125-2

[ハイライト]

L P：SXL 6987, 6.42 597AS, 591 152

C D：421 317-2

[部分]

C D：421 311-2



▲D 132 D4(モーツァルト：歌劇「フィガロの結婚」)

◎バッハ／①ブランデンブルク協奏曲第
 5番二長調B.W.V.1050②第1番ヘ長
 調B.W.V.1048③第2番ヘ長調B.W.V.
 1047④第4番ト長調B.W.V.1049⑤第
 3番ト長調B.W.V.1048⑥第6番変
 調B.W.V.1051

■フィリップ・モル(cemb), トマス・ブ
 ランディス(vn/①/③/④), ヴィオリ
 ノ・ピッコロ/②), カール・ハイン
 ツ・ツェラー(fl/①/④), ウィリアム
 ・ティム・リード(cemb/②), ハンス
 イエルク・シェンベルガー(ob/
 ②/③), ゲルト・ザイフェルト(hrn

ASD 3775, SZ 37686

- ①
LP : EG 29 1070-1
CD : CDS 763 321-2, CDM 253 652
-2, CDM 764 325-2
- ②
LP : SXLP 30506



▲1C 065 03 627(ドヴォルザーク:交響曲第8番&スラヴ舞曲第8番)

- マラー/交響曲第4番ト長調
■エディット・マティス(S), ミシェル・シュヴァルベ(vn), ベルリンpo.
▶1979年1月22~24日, 2月22~24日
ベルリン, フィルハーモニーザール
Pハンス・ヒルシュ
Dミシェル・グロツツ/コード・ガーベ
ン
Eギュンター・ヘルマン
M2531 205
LP : MG 1222
CD : F35G 50305, POCG 2255, POCG
7081
*LP : 2531 205, 2543 057, 2720 112,
419 863-1
CD : 415 323-2, 419 863-2



▲2531 205(マラー:交響曲第4番)

- V①①ヴェルディ/歌劇「運命の力」序曲
②ビゼー/「アルルの女」よりバスター
ール、間奏曲、ファランドール③リス
ト(ドブラー編)/ハンガリー狂詩曲
第2番④ベルリオーズ/劇物語「フ
アウストの劫罰」よりハンガリー行進
曲⑤マスカニニ/歌劇「友人フリッツ」
間奏曲⑥スッペ/歌劇「軽騎兵」序曲
■ベルリンpo.

▶1978年12月31日ベルリン, フィルハー
モニーザール
芸術総監督:ヘルベルト・フォン・カラ
ヤン
技術監督:ヴィルヘルム・ヴィルムス
映像監督:エルンスト・ヴィルト/ジ
ークフリート・ハーマン
映像編集:ヘイディ・ベーム
撮影:セップ・ユルゲン・ブラウネ/ア
レクサンダー・ゴールデン/ミヒャエ
ル・ホップラ/オトフリート・ランガ
ー/マンフレット・シェプスタート/
マニエル・スタール/ミヒャエル・
ザウシュ

音響Eハンス・ユルゲ
ン・ミュー
ル
音響Pヴォルフガング・ギューリヒ
音響監督:ヨアヒム・アウグスティ
ン
プロダクション・マネージャー:ディ
トリヒ・ブレール
エグゼクティブPホルント・H・ホ
ールフェルト

- LD POLG 1036
②
VHD VHM 68107
③
VHD VHM 68107
④
VHD VHM 68107
⑤
VHD VHM 68107
⑥
VHD VHM 68107
*LD 072 183-1(PAL), 072 283-1(NT
SC)

- ドヴォルザーク/①交響曲第8番ト長
調作品88②スラヴ舞曲第8番短調作
品46-8

■ベルリンpo.
▶1979年1月2~3日ベルリン, フィ
ルハーモニーザール
Pミシェル・グロツツ
Eヴォルフガング・ギューリヒ
M03 627
*LP : EAC 80542, EAC 47293-5, EAC
99003
CD : CC28 99003, CE25 5610, TOCE
1508

- ①
CD : TOCE 5984-7
*LP : 1C 065 03 627, 2C 069 03 627,

- フレデリカ・フォン・シュターデ(Ms
:メリザンド), リチャード・スティ
ルウェル(T:ペレアス), ジョゼ・ヴァ
ン・ダム(Br:ゴロー), ルジャロー
・ライモンディ(Bs:アルケル), ナディ
ーナ・ドゥニエツ(A:ジェヌヴィエ
ーヴ), クリスティーン・バルボー(S
:イニョルド), バスカル・トーマ(Bs
:医師/羊飼), ベルリン・ドイツ
・オペラcho., ウルター・ハーゲン=グ
ロル(合唱指揮), ベルリンpo.

▶1978年12月ベルリン, フィルハーモ
ニーザール

- Pミシェル・グロツツ
Eヴォルフガング・ギューリヒ
M03 650-3
*LP : EAC 77324-6
CD : CE30 5027-9, TOCE 6452-4
*LP : 1C 165 03 650-2, SLS 5172, S
ZCX 3885, EX 74 9350-1, 2C 1
67 650-2
CD : CDS 749 350-2



▲EX 749 350-1(ドビュッシー:歌劇「ペレアスとメリザ
ンド」)

- ①ビゼー/「アルルの女」組曲第2番②
シャブリエ/狂詩曲「スペイン」③グ
ノー/歌劇「ファウスト」よりバレエ音楽
④ベルリオーズ/劇物語「ファウ
ストの劫罰」よりハンガリー行進曲
■ベルリンpo.

▶1978年12月29日, 31日, 1979年1月3
日ベルリン, フィルハーモニーザール
Pミシェル・グロツツ
Eヴォルフガング・ギューリヒ
M03 626
*LP : EAC 90003
*LP : 1C 065 03 626, 2C 069 03 626,
2C 059 03 054, ASD 3761, EG
29 1068-1
CD : CDC 749 895-2, CDM 763 527
-2

- ①
CD : CMS 764 563-2
②
CD : CMS 764 563-2



▲1C 065 03 626(「カラヤン・イン・パリ」)



エディット・マティスとカラヤン

◎名演奏家

ディスコグラフィ◎

Herbert von Karajan

ヘルベルト・フォン・カラヤン



連載「指揮棒の魔術師」第九章：財団設立者⑤

ハンスヤー・コプ・クレーバー著 高橋みき訳

技術革新と音楽のはざままで

カラヤンは、テレビについて思い違いをしていた一九六三年から十七年後、オランダの音楽雑誌『ディスク』誌上で「小さな映像と巨大な音との結び付き」についての質問を受け、「非常に興味深い実例」について物語った。「十二年か十四年前」のことです（著者注：六九年五月）。ミラノ・スカラ座がモスクワで引越した公演を行なったとき、私はちょうどボリ

シヨイ劇場で指揮していました。いくつかの催しがあるうちの六千人を収容する大ホールで持たれていたのです。私はとても興味をそそられ、自分が指揮をしない日に足を運びました。そこで私はエンジニアたちに頼んでモニター・ルームに入れてもらいました。そこではチーフ・エンジニアが壁に設置されたモニターに向かつており、私が舞台とモニター画像を見比べようとすると、その映像はすぐに大きくなりました。このことにより、この日は私はそれまでよりも多くを学ぶことができたのです。つまり観客が——もちろん最前列の人ではありませんが、目にしたものをそのままエンジニアも観ることができるということを知ったのです。もしもそれと同じことを劇場内で実行しようとするなら、当然おかしいことになってしまいます。すべての聴衆はだれひとりとして他の人と同じようにそれを観ることなどできないのです。舞台から二〇mも遠ざかってしまえば座席の差異は微々たるものになるでしょうが、今度は腕を振りまわす人影が見えるだけで、歌手の表情の動きを見ることはできなくなっています。

私たちはレオンカヴァルロの《道化師》の映像を制作しましたが、そのなかに妻の裏切りを知った、テノール歌手の扮す



フィルハーモニーザールで映像収録中のカラヤン



1971年、ビデオ・ディスクについて説明するカラヤン

る夫が歌うアリアがあります。彼は激しく憤ってその心の苦痛を世界に向けて歌うのですが、通常は単に舞台上から観客に向かって歌われるだけです。だが私はその映像のなかに、彼に手鏡を持たせて化粧させ、彼が妻の裏切りを知るやいなや拳を叩きつけて鏡を割るように演出しました。そしてこの割れた鏡に写る碎かれた顔が苦痛のアリアを歌うようにしたのです。

こういうことを劇場で行なうことはできません。やってみたところで、誰もその演出を理解しないでしょう。割れた鏡とそれに写った顔までは観客に見えないからです。以上のことから、実に多くのことが劇場内でも映像上で、それが正しく扱われるなら、はるかにうまく

表現できるということが明らかでしょう。演奏会でも同様に聴衆は全体を観ることはできません。多くのものを同時に見ることはできないというのは、確かに私たちの目の長所ではありますが、結局のところ私たちはひとつのものに集中してしまっています。それで映像を制作するとき、私たちは観客の目の動きを模倣しようと努めています。同時に、彼はどこを見るだろうか、彼の視覚的な印象と聴覚的な印象とが重なり合うようにするためにはどのように彼の視線を操作すればいいだろうか、と、問いかけているのです。このようにして私たちは、かつて可能であったよりもさらに多くのことができるようになりました。それは単に、以前はこのような機会が全然なかったからなのです。

人はいつも技術の力を過小評価して語ろうとします。『技術』とは非常に多義的な言葉です。音楽を操縦する、ということがいいつも言われていますが、私たちは技術によつて、聴き手が歌劇場で体験するのと寸分違わないような音響を創造するのです！」

その結果どうなったのだろうか？ ZDFは莫大な出費をして——同業であるARDとの協定なしで——予算の関係で実現化が見送られていたところの、ダイレクトにステレオ放送を行なう技術を開発したのである。また産業界もそれに連れてただちに、左右のスピーカーとステレオ音響の受信・再生機能を備えたテレビの配線図を技術開発の実験室から手に入れ、製品化して送り出したのだった。

カラヤンは西ドイツ国営第二テレビ放送（ZDF）と契約していたが、第一テレビ放送（ARD）がコンサート（バーンスタイン指揮によるベートーヴェンの交響曲の全曲演奏など）とオペラの番組を、ARDの第三超短波プログラムを經由させることで、ハイファイ・ステレオ放送で放映したことに對し、激怒した。聴視者は自宅でテレビの音声を切り、その地区の第三超短波プログラムのスイッチを入れることで、ステレオの音響を映像と同時に楽しむことができたのである。

カラヤンは、業界にそのような競争を起させるにはほんの少しの後押しで十分だということを、最先端の技術開発をつづける日本の企業の首脳陣との家族ぐるみの付き合いのなかから熟知していたのである。今日（八六年の時点）で、ステレオ放送用のテレビにはもはや何の問題も見出だされない。また、それに内蔵されているステレオ用スピーカーが故障した際には、テレビはそのまま小型のハイファイ装置ないしそれ用のスピーカーを接続することにより、カラヤン独特の美音を楽しむことができるのである。——おまけにマエストロの姿をも望み通りに観ることができるのだ。

それに對しカラヤンは、いかにも彼らしく応じた。つまり、ZDFがステレオ放送をしないかぎり、彼はライブ演奏会をZDFでは放送させないと宣言したのである。七九年のなかごろの出来事であった。

カラヤンはなんとすでに六八年に『フ



「オノフォルム」誌上で、「そろそろオーディオ・ビデオテープが実用化されてもいい」、「今後図書館はヴィジュアル資料室にとって代わられるだろうことを、言っておかねばならない」と予見していたが、まさしくカラヤンのなヴィジョンが近いうちに実現するであろうことを、七八年にロベルト・C・バツハマンに語っている。「ケーブルテレビとビデオカセットの領域での大々的な発展が近づきつつある。目下新しく起こりつつある、一部はホログラムの基礎においても有効と思われる方法は、そのまま巨大な進歩を意味するものだ……。とにかく将来そうなつてゆくだろうし、もはやこの発展を阻むものは何もない」。

ホログラムまたはホログラフィーとは、レーザー光線によって三次元の、立体的な画像を造り出しかつ再生する技術のことである。すぐにもカラヤンその人が居間に立ち、ベルリン・フィルが応接間で演奏するようになるだろう。これは、次の次の段階である。次の、カラヤンによつて七十七年に予言された段階は、すでに実現を見た。「……ビデオディスク（いずれにせよレーザー光線で走査される）が普及しさえすれば、オペラ・ファンは皆いつでも好きなときに私の演出した作品を自宅で、最高の再生装置で観賞することができ……」。

ビデオディスクのことを、多くの人はそれを一種のフロッピーディスクと考えていた。国際的な企業はそれについて知ろうとしない態度をとっていたが、実は隠れてその発展のための研究を続けて



演奏中のカラヤン

いた。

ひとつのことだけは確実である。ヘルベルト・フォン・カラヤンというモーターが七八歳という年齢にしてなお、回つて回つて回り続け、「音楽と技術革新」という分野では、私たちが生きた二十世紀でおそらく最も新しいモーターであったということだ。

八三年三月には、彼は新しい会社——モンテ・カルロに本社を置く映像制作会社「テレモンディアル」を設立した。こ

れは、オーディオ・ヴィジュアル用のメディアのために、クラシック音楽作品の付随した映像を制作する会社である。しかも同社は一切の著作権を、開発されたばかりの、将来長く使用されるメディアの技術のためまでも考慮して、法律的に明文をもつて保全していた。

カラヤンは自分を凍結してもらいたがつていた。技術の進歩が追いついた時点で活動を継続できるように、冷凍庫に二十年間置いた後に解凍してもらいたいと



エリエッテ夫人と散歩するカラヤン

言ったことがある。実に大胆な発想と言えよう。だが答えはほしい。どこに人間的なものが残っているというのか？

新しいコンパクト・ディスクの製造と再生との技術的完璧さを祝賀して、八二年にザルツブルクで開かれた記者会見で、ひとりのジャーナリストがマエストロに質問した。「今ここに技術が存在しています。しかしそれは、『魂の底から演奏する』ということとはどのように関わるのでしょうか？ それは感情とはどう関わるのですか？ 感情はどこにあるのでしょうか？」

カラヤンは最初冷静に答えていたが、だんだんと情熱的になっていった。「感情というものは——もしもあなたが『楽譜』しか持たないなら——どこにも存在しないだろう。だが本当の音楽が創り出される瞬間においては——それはもちろん常に人から人への表現なのだ！そして感情を持たない人間など存在しない。彼の感情が非常に秘められたものか、あるいはまた、それが強すぎるといふことはあるだろう。しかし私は感情のない、音楽における実際に感情のない段階というものは知らない」。

それでは「人間」カラヤンは？ 彼はどのようなのだらうか？ しばしば彼がそう呼ばれたように、「謎」なのだらうか？ マエストロにおける人間的なるもの——それはどこに見出だされるのだろうか？

この質問に答えることは難しいように思われるが、もしかすると考えられているよりは簡単なものかもしれない。（第九章完）



ヘルベルト・フォン・カラヤン=ディスコグラフィ

●ディスコグラフィ制作.....佐々木 豊 (資料提供: D.C.ランボン(英), 鈴木恭司, 金井清)

[ディスコグラフィ記載方法]

- 順序は演奏者、収録年月日、収録会場、プロデューサー([P]), ディレクター([D]), レコーディング・エンジニア([E]), マトリックス番号([M]), 日本盤・外国盤のレコード番号、特記事項になっている。曲目の前の[V]は映像作品を示す。
- 収録年月日は録音に要した日付であり、実際に使われていないディスクも含んでいる。
- レコード番号はLP(10インチを含む), CD(CD miniを含む), LD, MDの順になっており、日本盤は各項目ごと発売順に並んでいる。
- 原則として初出のアルバムごとの配列にし、その中で最も早い録音日をもって記してある。
- アルバムのなかでは、(1)(2)(3)の曲番号を便宜上つけて各々のデータをわけた。また、オムニバス盤ではレコード番号のあとに曲番号を記したが、必ずしも収録順を示してはいない。
- 外国盤のLDの再生方式(PAL/NTSC等)は、ディスク番号のあとに記した。
- 全曲盤よりの抜粋・編集ものは「[ハイライト]・[部分]」としてまとめたが、各々のLPやCDで収録範囲は同じではない。
- 主な略記号は本誌巻末「新譜CD&LD一覧表」のものを使用している。

劇場

●CD: Standing room SRO 822

●ブッチーニ/歌劇「トスカ」

■カティア・リッチャレリ(S:トスカ), ホセ・カレーラス(T:カヴァラドッシ), ルジエーロ・ライモンディ(Bs:スカルピア男爵), ゴットフリート・ホーニク(Bs:アンジェロッティ), ハイムツ・ツェニク(T:スポレッタ), フェルナンド・コレナ(Bs:教会の番人), ヴィクター・フォン・ハーレム(Bs:シャルローネ/看守), ヴォルフガング・ビュルテン(B-S:羊飼いの少年), ベルリン・ドイツ・オペラcho., シェネベルク少年cho., ワルター・ハーゲン=グロル(合唱指揮), ベルリンpo.

▶1979年9月10~23日, 11月25日ベルリン, フィルハーモニーザール

●ギンター・ブレスト

●ミシェル・グロツ

●ギンター・ヘルマン

M2531 247-8

●LP: MG 8425-6

CD: F64G 50189-90, POCG 2885-6

[ハイライト]

CD: F20G 29055, POCG 3042

[部分]

CD: F26G 29003, POCG 7049

●LP: 2707 121, 827 773

CD: 413 815-2

[ハイライト]

LP: 2537 058

CD: 423 113-2

[部分]

CD: 415 341-2, 427 034-2, 431 255-

2



▲2707 121(ブッチーニ:歌劇「トスカ」)

●ベートーヴェン/ヴァイオリン協奏曲二長調作品61

■アンネ=ゾフィー・ムター(vn), ベルリンpo.

▶1979年9月24~25日, 12月18日ベルリン, フィルハーモニーザール

[ハイライト]

LP: 1C 061 03 997

[部分]

CD: CDM 763 111-2, CDM 763 337-2, CDM 769 338-2, CDM 769 549-2, CZS 252 159-2



▲1C 165 03 874-6(ヴェルディ:歌劇「アイダ」)

●ブルックナー/交響曲第8番八短調(ハース版)

■ウィーンpo.

▶1979年6月4日リンツ, 聖フロリアン大聖堂

芸術総監督: ヘルベルト・フォン・カラヤン

撮影: フェリックス・クレンクル/アウグスト・ベンデル/ペーター・ガヴァック/ハンス・ヴィクトール・ケブラー

/ペーター・バース/ヴァルター・レクトーリク/クラウス・デ・ツヴァー

映像編集: クルト・ツェラー

照明: エルンスト・トッター

音響: エドウィン・ハウス

音響: ヴォルフガング・ギュリーヒ/ミロスラフ・スヴォボダ

映像: マルガレーテ・シュタマー

助監督: ゲラ=マリナ・ルンネ

映像編集: ゲラ=マリナ・ルンネ

●ヴァルター・シュミット

プロダクション・マネージャー: ホーランド・H・ホルフェルト

●LP: POLG 1005

●LP: 072 136-1 (PAL), 072 236-1 (NTSC)

※ユニテル・ORF・ZDFの共同制作によるライブ収録。

●ヴェルディ/歌劇「アイダ」より第4幕第1場(部分)

■マリリン・ホーン(Ms: アムネリス), ニコライ・ギャウロフ(Bs: ランフィス), マリオン・ランプリクス(Ms: 巫女の長), ウィーン楽友協会cho., ワルター・ハーゲン=グロル(合唱指揮), ウィーンpo.

▶1979年7月26日ザルツブルク, 祝祭大

●ベートーヴェン/ミサ・ソレムニス二長調作品123

■アンナ・トモワ=シントウ(S), ルジャ・バルダーニ(A), エリック・タビエ(T), ジョゼ・ヴァン・ダム(Bs), ウィーン楽友協会cho., ヘルムート・フロシャウアー(合唱指揮), ベルリンpo.

▶1979年4月7日ザルツブルク, 祝祭大劇場

芸術総監督: ヘルベルト・フォン・カラヤン

映像監督: エルンスト・ヴィルト

撮影: フェリックス・クレンクル/アウグスト・ベンデル/ペーター・ガヴァック/ハンス・ヴィクトール・ケブラー

/ペーター・バース/ヴァルター・レクトーリク/クラウス・デ・ツヴァー

映像編集: クルト・ツェラー

照明: エルンスト・トッター

録音: エルンスト・ロミール

音響: ヴォルフガング・ギュリーヒ/ミロスラフ・スヴォボダ

ビデオ: マルガレーテ・シュタマー

助監督: ゲラ=マリナ・ルンネ

プロダクション・マネージャー: ハインリヒ・エイグナー

エグゼクティブ: ホーランド・H・ホルフェルト

●LP: POLG 1023

●LP: 072 134-1 (PAL), 072 234-1 (NTSC)

※ユニテル・ORF・ZDFの共同制作によるライブ収録。

●ヴェルディ/歌劇「アイダ」

■ミレラ・フレニ(S: アイダ), ホセ・カレーラス(T: ラダメス), アグネス・バルツァ(Ms: アムネリス), ビエロ・カブッチリ(Br: アモナスロ), ルジエーロ・ライモンディ(Bs: ランフィス), ジョゼ・ヴァン・ダム(Bs: エジプト王), カティア・リッチャレリ(S: 巫女の長), トーマス・モーザー(T: 使者), ウィーン国立歌劇場cho., ワルター・ハーゲン=グロル(合唱指揮), ウィーンpo.

▶1979年5月7~10日, 14~17日ウィーン, ムジックフェラインザール

●ミシェル・グロツ

●ヴォルフガング・ギュリーヒ

M03 874-6

●LP: EAC 77335-7

CD: CE30 5195-7, CE22 5951-2

[ハイライト]

CD: CE33 5478, TOCE 2314

●LP: 1C 165 03 874-6, 2C 167 03 874-6, SLS 5205, SZCX 3883, EX 290 808-3

CD: CDS 769 300-2

CD : LCB 130

※ザルツブルク・イースター音楽祭の全曲上演のうちより前奏曲のみがとられている。

この「ライブ・クラシック100」のシリーズのうちLCB 129のR.シュトラウス／交響詩《死と変容》作品24は75年7月27日のアバド指揮のウィーン・フィルの演奏とおもわれるため、カラヤン指揮のものから除外いたします。

○ワーグナー／歌劇《ローエングリン》より第1幕前奏曲

■ベルリンpo.

▶1976年4月10日ザルツブルク、祝祭大劇場

CD : LCB 130

※76年のイースター音楽祭の初日の上演のうちより前奏曲のみがとられている。

○R.シュトラウス／交響詩《ツアラトウストラはかく語りき》作品30

■ベルリンpo.

▶1977年5月28日ザルツブルク、祝祭大劇場

CD : LCB 129

※ザルツブルク聖霊降臨祭におけるライブ録音。この日の前半のプログラムはモーツァルトの交響曲第39番である。

○R.シュトラウス／①交響詩《ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら》作品28②《ドン・ファン》作品20

■ベルリンpo.

▶1977年5月29日ザルツブルク、祝祭大劇場

CD : LCD 129

※ザルツブルク聖霊降臨祭におけるライブ録音。この日は予定されていた《家庭交響曲》から、この2曲に変更になった。前半のプログラムはモーツァルトのヴァイオリン協奏曲第3番（アンネ・ゾフィー・ムターとカラヤンの初共演）である。なお、この年の聖霊降臨祭はすべてモーツァルトとR.シュトラウスの作品の組み合わせであった。

○ブルックナー／交響曲第9番二短調

■ウィーンpo.

▶1978年5月7日ウィーン、ムジークフェラインザール

CD : LCB 141

※ユニテルの映像分と重複するが7日一日分のライブ録音として補追する。

○シベリウス／悲しきワルツ作品44の1

■ベルリンpo.

▶1978年6月24日パリ

CD : LCB 145

※78年6月のパリ公演（22～23日シャンゼリゼ劇場）の翌日、フランスのテレビ番組出演の際のライブ録音。この曲を含めて9曲の小品がカラヤンのインタヴューなどとあわせて放送された。

○ブルックナー／交響曲第4番変ホ長調《ロマンティック》

■ベルリンpo.

▶1979年6月2日ザルツブルク、祝祭大劇場

CD : LCB 141

※79年ザルツブルク聖霊降臨祭2日目のライブ録音。この日の前半のプログラムはバッハのブランデンブルク協奏曲第4番であった。

（訂正・削除）

1940年6月のスメタナ／交響詩《モルダウ》の⑧LP: LPEM 19 078は全曲が収録されておらず、〔部分〕に訂正いたします。また、1974年9月のワーグナー／歌劇《ローエングリン》第3幕への前奏曲の⑧CD: CDM 764 334-2を削除いたします。

第III期 補追・訂正

本号で第III期を終了いたしますが、第I期の最終回の補追で掲載しました戦中のベルリン国立歌劇場管弦楽団とのベートーヴェンの《英雄》とブルックナーの交響曲第8番が最近KOCH-schwannより正規にCD化されました。ブルックナーは依然第1楽章が見つかりませんが、録音月日が異なるため再録いたします。さらに《英雄》のほうは、イギリスのアレグロというレーベルより60年代に発売されたフリッツ・シュライバー指揮ドレスデン国立交響楽団のLP盤と同一の演奏であると確認されましたので、併せて再録いたします。

○ベートーヴェン／交響曲第3番変ホ長調作品55《英雄》

■ベルリン国立歌劇場o.

▶1944年5月ベルリン

⑧LP: ALL 701

Arfon II 91 00049

CD: DR 920040

Koch schwann 3 1509-2

○ブルックナー／交響曲第8番より第2～4楽章

■ベルリン国立歌劇場o.

▶1944年6月26日または28日（第2楽章）、6月28日（第3楽章）、9月19日または29日（第4楽章）

⑧CD: Koch schwann 3 1448-2（第4楽章はステレオ録音）

〔第4楽章〕

LP: Discorp RR 391, RR 508

CD: HUNT CD705（ステレオ録音）

また、最近になって「ライブ・クラシック100」というライブCDが発売されていますので、補追いたします。

○R.シュトラウス／交響詩《英雄の生涯》作品40

■ベルリンpo.

▶1971年4月4日ザルツブルク、祝祭大劇場

CD: LCB 129

※ザルツブルク・イースター音楽祭におけるライブ録音。この日の前半のプログラムはベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番（ワイセンベルク）である。

○バッハ／ブランデンブルク協奏曲第6番変ロ長調BWV.1051

■ベルリンpo.

▶1973年8月27日ザルツブルク、祝祭大劇場

CD: LCB 134

※ザルツブルク音楽祭のライブ録音。この日のプログラムはこの曲のあとベルクの《オケストラのための3つの小品》、休憩をはさんでブラームスの交響曲第1番であった。

○バルトーク／管弦楽のための協奏曲Sz.116

■ベルリンpo.

▶1974年2月10日ベルリン、フィルハーモニーザール

CD: LCB 148

※この日の前半はモーツァルトのディヴェルティメント第17番であった。

○ワーグナー／楽劇《ニュルンベルクのマイスタージンガー》より①第1幕前奏曲②第3幕前奏曲

■ベルリンpo.

▶1975年3月23日ザルツブルク、祝祭大劇場

○ギンター・ブレスト

○ミシェル・グロツ

○ギンター・ヘルマン

⑧2531 250

⑧LP: MG 1268

CD: F35G 50013, F00G 27061, POCG 9049-51, POCG 4052

⑧LP: 2531 250, 2740 282, 2543 032, 2720 111, 415 565-1

CD: 413 818-2, 415 565-2

○ブルックナー／交響曲第6番イ長調（原典版）

■ベルリンpo.

▶1979年9月25～26日ベルリン、フィルハーモニーザール

○ギンター・ブレスト

○ミシェル・グロツ

○ギンター・ヘルマン

⑧2531 295

⑧LP: 28MG 0028, 00MG 0401-11

CD: F35G 50400, POCG 2033-41

⑧LP: 2531 295, 2740 264

CD: 419 194-2, 419 985-2, 429 648-2, 429 677-2

○ベートーヴェン／ピアノ、ヴァイオリンとチェロのための三重協奏曲ハ長調作品56

■マーク・ゼルツァー(p), アンネ・ゾフィー・ムター(vn), ヨー・ヨー・マ(vc), ベルリンpo.

▶1979年9月27～29日ベルリン、フィルハーモニーザール

○ギンター・ブレスト

○コード・ガーベン

○ギンター・ヘルマン

⑧2531 262

⑧LP: MG 1257

CD: F35G 50124, POCG 9380-9, POCG4053

⑧LP: 2531 262, 2740 262, 827 794

CD: 415 276-2, 435 096-2

○マーラー／交響曲第9番二長調

■ベルリンpo.

▶1979年11月22～23日、1980年2月15～17日、9月30日ベルリン、フィルハーモニーザール

○ギンター・ブレスト

○ミシェル・グロツ／コード・ガーベン

○ギンター・ヘルマン

⑧2531 331-2

⑧LP: 52MG 0108-9

CD: POCG 2258-9

⑧LP: 2707 125

CD: 439 678-2



▲2707 125(マーラー：交響曲第9番)